

(様式第 10)

弘大病経第 251 号  
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

弘前大学医学部附属病院長  
藤 哲

弘前大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
氏 名	国立大学法人弘前大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

弘前大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒036-8563 青森県弘前市本町53番地	電話 (0172) 33-5111
---------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 消化器内科 2 血液内科 3 循環器内科 4 呼吸器内科 5 腎臓内科 6 内分泌内科 7 糖尿病・代謝内科 8 感染症内科 9 神経内科 10 腫瘍内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 心臓血管外科 3 消化器外科 4 乳腺外科 5 形成外科 6 小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制 一般歯科診療所より紹介された各種難治性疾患に対しての診療を実施しています。具体的には、う蝕や歯周疾患に伴う顎骨周囲の炎症性疾患、顎関節症、口腔ケア、救急処置の診療が適切に行える体制を整備しています。 また、歯科研修医に対しても、口腔外科症例の他に一般的歯科診療が行える診療体制を整備しています。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科
---------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41床	6床	0床	0床	597床	644床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	323人	7人	325.6人	看護補助者	29人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	18人	0人	18人	理学療法士	8人	臨床検査技師	50人
薬剤師	26人	0人	26人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	27人	0人	27人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	544人	24人	562.6人	臨床工学技士	15人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	12人
歯科衛生士	0人	3人	2.3人	歯科技工士	1人	事務職員	131人
管理栄養士	6人	0人	6人	診療放射線技師	35人	その他の職員	12人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	17人	眼科専門医	7人
外科専門医	33人	耳鼻咽喉科専門医	5人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	1人
小児科専門医	13人	脳神経外科専門医	8人
皮膚科専門医	13人	整形外科専門医	16人
泌尿器科専門医	8人	麻酔科専門医	10人
産婦人科専門医	12人	救急科専門医	4人
		合 計	151人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	484人	8人	492人
1日当たり平均外来患者数	1423.1人	54.2人	1477.3人
1日当たり平均調剤数			1774.8剤
必要医師数			131.5925人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			22人
必要(准)看護師数			297人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	793 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	26床	心電計	○・無
			人工呼吸装置	○・無	心細動除去装置	○・無
			その他の救急蘇生装置	○・無	ペースメーカー	○・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 57 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台			病床数	4 床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 175 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 : 薬剤部薬務室					
化学検査室	300m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 移動式免疫発光測定装置・電気化学発光測定装置・システム生物顕微鏡 等			
細菌検査室	117m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) MHE-130B1・高圧蒸気滅菌装置・テーブルトップ遠心機 等			
病理検査室	148m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動染色装置・検体前処理装置 等			
病理解剖室	117m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ホルマリン希釈混合装置・電動解剖鋸 等			
研究室	10,356m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 遺伝子発現・薬剤分析システム・パーソナル次世代シーケンサー 等			
講義室	454m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	362 人
図書室	1341m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	3 室	蔵書数	17万8千冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	91.2%	逆紹介率	80.3%
算出根拠	A: 紹介患者の数		10,555人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,159人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		989人
	D: 初診の患者の数		12,653人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
実物大臓器立体モデルによる手術支援	0人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテーラーメイドのがんワクチン療法 ホルモン不応性再燃前立腺がん (ドセタキセルの投与が困難な者であって、HLA-A24が陽性であるものに限る。)	0人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下腎部分切除術	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下膀胱全摘除術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci)を使った膀胱全摘除術であり、低侵襲性である。			
医療技術名	ロボット支援下回腸新膀胱造設術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci)を使用して、回腸で新しい膀胱(代用膀胱)を造設するものであり、低侵襲性である。			
医療技術名	ロボット支援下腓体尾部切除・腓摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci)を使った、腓切除術であり、低侵襲性である。			
医療技術名	ロボット支援下子宮体癌・子宮頸癌手術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci)を使った広汎子宮全摘術、準広汎子宮全摘術もしくはリンパ節郭清であり、低侵襲性である。			
医療技術名	MLPA法を用いた遺伝性疾患の遺伝子診断	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 従来のサンガー法による変異検出法では同定し得ない遺伝子変異の検出が可能である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	84人	・膿疱性乾癬	7人
・多発性硬化症	38人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	38人	・原発性胆汁性肝硬変	24人
・全身性エリテマトーデス	172人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	66人
・再生不良性貧血	30人	・混合性結合組織病	21人
・サルコイドーシス	90人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	17人	・特発性間質性肺炎	7人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	105人	・網膜色素変性症	56人
・特発性血小板減少性紫斑病	43人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	23人	・肺動脈性肺高血圧症	5人
・潰瘍性大腸炎	190人	・神経線維腫症	16人
・大動脈炎症候群	17人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	8人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	14人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	27人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	84人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	9人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	85人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	9人
・後縦靭帯骨化症	81人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	14人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・リンパ管筋腫症(LAM)	3人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	15人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	6人	・黄色靭帯骨化症	10人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	6人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	137人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	特定集中治療室管理料3
歯科外来診療環境体制加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
歯科診療特別対応連携加算	新生児特定集中治療室管理料2
特定機能病院入院基本料	小児入院医療管理料4
臨床研修病院入院診療加算	
救急医療管理加算	
超急性期脳卒中加算	
妊産婦緊急搬送入院加算	
診療録管理体制加算(2)	
急性期看護補助体制加算(50対1)	
看護職員夜間配置加算	
療養環境加算	
重症者等療養環境特別加算	
無菌治療室管理加算(1)	
緩和ケア診療加算	
がん診療連携拠点病院加算	
医療安全対策加算(1)	
感染防止対策加算(1)	
患者サポート充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊婦管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
退院調整加算	
救急搬送患者地域連携紹介加算	
データ提出加算(2)	
救命救急入院料4(注3加算も含む)	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	胎児心エコー法
高度難聴指導管理料	ヘッドアップティルト試験
糖尿病合併症管理料	皮下連続式グルコース測定
がん性疼痛緩和指導管理料	長期継続頭蓋内脳波検査
がん患者指導管理料	神経学的検査
外来緩和ケア管理料	補聴器適合検査
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	内服・点滴誘発試験
移植後患者指導管理料(造血肝細胞移植後)	センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
糖尿病透析予防指導管理料	画像診断管理加算1
院内トリアージ実施料	画像診断管理加算2
外来リハビリテーション診療料	ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
外来放射線照射診療料	CT撮影及びMRI撮影
がん治療連携計画策定料	冠動脈CT撮影加算
がん治療連携管理料	大腸CT撮影加算
肝炎インターフェロン治療計画料	心臓MRI撮影加算
薬剤管理指導料	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
医療機器安全管理料1	外来化学療法加算1
医療機器安全管理料2	無菌製剤処理料
歯科治療総合医療管理料	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
持続血糖測定器加算	運動器リハビリテーション料(I)
造血器腫瘍遺伝子検査	集団コミュニケーション療法料
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	認知療法・認知行動療法
検体検査管理加算(IV)	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	一酸化窒素吸入療法
植込型心電図検査	皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
時間内歩行試験	組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	ダメージコントロール手術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	腹腔鏡下肝切除術
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	生体部分肝移植術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
網膜再建術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
人工内耳植込術	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	同種死体腎移植術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	生体腎移植術
乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	膀胱水圧拡張術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
経皮的冠動脈形成術	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	人工尿道括約筋植込・置換術
経皮的冠動脈ステント留置術	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
経皮的大動脈弁置換術	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
磁気ナビゲーション加算	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
経皮的中隔心筋焼灼術	輸血管理料 I
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	貯血式自己血輸血管理体制加算
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	自己生体組織接着剤作成術
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術	内視鏡手術用施設機器加算
経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術	歯周組織再生誘導手術
大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
補助人工心臓	麻酔管理料(I)
経皮的大動脈遮断術	麻酔管理料(II)



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・超音波骨折治療法	・
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・消化器(内科・外科)病理合同カンファレンス週1回 ・泌尿器・病理合同カンファレンス週1回 ・細胞診カンファレンス月2回 ・脳神経外科・病理合同カンファレンス月1回 ・婦人科・病理合同カンファレンス月1回 ・呼吸器・病理合同カンファレンス週1回 ・リンパ腫カンファレンス月1回 ・その他不定期の検討会月数回程度
剖検の状況	剖検症例数 29 例 / 剖検率 16.00%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ダウン症候群に伴う急性巨核球性白血球の多段階発症の分子機構	伊藤 悦朗	小児科学講座	9,000,000	補委 日本学術振興会
前立腺特異抗原を凌駕する糖鎖標的前立腺癌診断ツールの開発と臨床応用	大山 力	泌尿器科学講座	2,400,000	補委 日本学術振興会
遺伝子改変マウスを用いたBP230への自己抗体の誘導とBP230の新規機能の解析	澤村 大輔	皮膚科学講座	3,100,000	補委 日本学術振興会
ヘリコバクターピロリ感染による胃粘膜萎縮が健康者の骨密度低下に及ぼす影響	珍田 大輔	消化器血液内科学講座	2,000,000	補委 日本学術振興会
シクロスポリンによるSTAT3シグナルを介した腸上皮細胞アポトーシス制御	櫻庭 裕文	消化器内科	1,200,000	補委 日本学術振興会
冠縮性狭心症動物モデルを用いた冠縮の成因と治療に対する分子生物学的アプローチ	奥村 謙	循環呼吸腎臓内科学講座	1,300,000	補委 日本学術振興会
GATA1およびコヒーシン遺伝子変異による白血球発症の分子機構の解明	金崎 里香	小児科学講座	1,500,000	補委 日本学術振興会
ダウン症候群関連急性リンパ性白血病の発症機構の解明と新規分子標的の探索	照井 君典	小児科	1,400,000	補委 日本学術振興会
小児がんに対する抗体療法を増強する革新的免疫細胞療法の開発	工藤 耕	小児科	1,700,000	補委 日本学術振興会
メダ病における過角化機序の解明と新規蛋白補充療法の開発	中島 康爾	皮膚科学講座	500,000	補委 日本学術振興会
新しい手法を用いたヒト乳頭腫ウイルスによる皮膚病変の発症機構の解明	金子 高英	皮膚科	1,100,000	補委 日本学術振興会
線維芽細胞、間葉系幹細胞を用いた真皮再構築による表皮水疱症の新規治療戦略	松崎 康司	皮膚科	1,300,000	補委 日本学術振興会
カテーテルで挿入する僧帽弁人工弁の開発	皆川 正仁	胸部心臓血管外科学講座	400,000	補委 日本学術振興会
スタフィロキナーゼによる革新的脳塞栓症治療法の確立	嶋村 則人	脳神経外科学講座	1,700,000	補委 日本学術振興会
より良い全身麻酔からの覚醒を求めてー麻酔・睡眠科学からのERASへのアプローチ	櫛方 哲也	麻酔科学講座	800,000	補委 日本学術振興会
遺伝子治療を目指したCarbonyl reductaseの腫瘍縮小機序の解明	横山 良仁	産科婦人科学講座	1,700,000	補委 日本学術振興会
口腔癌に対する選択的免疫逃避解除を目指した基礎的研究	榎 宏剛	歯科口腔外科	1,500,000	補委 日本学術振興会
院内癌登録データにより青森県癌患者の動態の基礎的研究	松谷 秀哉	卒後臨床研修センター(総合医学教育学講座)	500,000	補委 日本学術振興会
統合失調症の個別化医療:疾患感受性遺伝子を用いたPK-PD-PGxモデルの構築	古郡 規雄	神経精神医学講座	900,000	補委 日本学術振興会
新規昇圧物質カップリングファクターあ6の血管傷害性に対する制御機構の確立	長内 智宏	循環呼吸腎臓内科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
認知症疾患のシナプスを標的とした病態解明と治療法の開発	瓦林 毅	神経内科	1,400,000	補委 日本学術振興会
パピヨン・ルフェール症候群のセリンプロテアーゼ活性化障害及び角化亢進要因の検討	滝吉 典子	皮膚科	1,200,000	補委 日本学術振興会
単色エックス線の物質分析法を用いた放射線治療における全く新たな予後予測法の開発	青木 昌彦	放射線部	1,200,000	補委 日本学術振興会
切除不能大腸癌肝転移に対する化学療法後肝切除の適応拡大に向けた新たな戦略	袴田 健一	消化器外科学講座	1,300,000	補委 日本学術振興会
末梢動脈送血法の数理生物学的解析による理論体系の構築	福田 和歌子	胸部心臓血管外科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会

小計25件

脳動脈瘤発生、増大、破裂に対するポリフェノールの抑制効果26	大熊 洋揮	脳神経外科学講座	1,500,000	補委	日本学術振興会
BCG抵抗性膀胱癌の糖鎖プロファイル同定とナノパーテクルBCGによる治療薬開発	盛 和行	泌尿器科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
妊娠の成立と維持に関与する免疫担当細胞の新しい機能	福井 淳史	産科婦人科	1,000,000	補委	日本学術振興会
好酸球性中耳炎モデルを用いた好酸球性中耳炎の病態解明と治療法の開発	松原 篤	耳鼻咽喉科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
視細胞保護を目指した新たな分子標的療法の研究	中澤 満	眼科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
クロマチン免疫沈降・シークエンス法による変異GATA1標的シス・エレメントの検索	土岐 力	小児科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
皮膚センチネルリンパ節の核医学的検出における新たな評価法とリンパ解剖マップ作成	三浦 弘行	放射線科	800,000	補委	日本学術振興会
麻酔後睡眠障害の治療戦略:睡眠ホメオスタシス調節の視点からのアプローチ	吉田 仁	救急・災害医学講座	600,000	補委	日本学術振興会
網膜色素変性に対する新規視細胞保護療法の展開	目時 友美	眼科	1,500,000	補委	日本学術振興会
生活習慣との相互作用を考慮した生活習慣病危険因子の検索	大門 眞	内分泌代謝内科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
ゴム人工筋肉を用いた心補助装置の開発	鈴木 保之	胸部心臓血管外科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
ニューロペプチドSの鎮痛作用に関する研究	廣田 和美	麻酔科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
糖鎖バイオマーカーを用いた癌の総合力評価により前立腺癌の過剰治療を回避する方法	大山 力	泌尿器科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
対面積効果の高い皮膚移植法(微細立方体皮膚移植法)の開発に関する研究	漆館 聡志	形成外科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
蛍光標識グルコース誘導体の消化管癌診断への応用	福田 眞作	胸部心臓血管外科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
TRPV3の遺伝子異常から掌蹠角化症に至る分子機構	澤村 大輔	皮膚科学講座	2,100,000	補委	日本学術振興会
発達障害とトラウマ性発達障害の鑑別及びトラウマへの治療効果判定に関する研究	中村 和彦	神経精神医学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
アトピー性皮膚炎と好酸球性食道炎に共通する発症機構の解明	皆川 智子	皮膚科	1,700,000	補委	日本学術振興会
皮膚腫瘍における癌遺伝子の変異解析とオーダーメイド治療への応用	六戸 大樹	皮膚科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
放射線治療増感を実現する癌幹細胞標的薬剤輸送システムの開発	廣瀬 勝己	放射線科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌の低酸素応答特性に基づいたYC-1-DEB TACE法の有用性	藤田 大真	放射線科	1,300,000	補委	日本学術振興会
体表面筋電位変化を用いたまったく新しい動体追尾予測モデルの確立	秋本 裕義	放射線科	2,200,000	補委	日本学術振興会
Early Brain Injuryに対するスタン・エダラボンの効果	奈良岡 征都	脳神経外科 (高度救命救急センター)	1,100,000	補委	日本学術振興会
AMP活性化プロテインキナーゼによる血管新生・血管漏出の抑制効果の検討	竹内 侯雄	眼科学講座	1,500,000	補委	日本学術振興会
血液型糖鎖抗原に結合する新規ペプチドによるABO不適合腎移植の拒絶抑制法の開発	米山 徹	泌尿器科学講座 (先進移植再生医学講座)	900,000	補委	日本学術振興会
卵巣癌に対する腫瘍壊死因子受容体を介した新しい治療法の研究	重藤 龍比古	産科婦人科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
癌特異的分子アネキシンを標的とした泌尿器癌化学療法の開発	畠山 真吾	泌尿器科	900,000	補委	日本学術振興会
オーグリカンを標的とした泌尿器癌悪性度マーカーの開発	飛澤 悠葵	泌尿器科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
うつ病における自殺企図の心理社会的機序の解明と予防法の開発	大里 絢子	神経精神医学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会

冠縮性狭心症動物モデルにおけるカルシウムシグナル伝達機構の解明	横田 貴志	循環呼吸腎臓内科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
腎糸球体上皮細胞におけるCD80発現の制御機構についての研究	島田 美智子	循環器内科	900,000	補委	日本学術振興会
LEMD3異常から結合織の増生に至る新しい分子機構の解明	是川 あゆ美	皮膚科	1,200,000	補委	日本学術振興会
ケラチン6c遺伝子異常による掌跖角化症の解析	赤坂 英二郎	皮膚科	1,600,000	補委	日本学術振興会
統合失調症患者における肥満発症メカニズムの解明	菅原 典夫	神経精神医学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
金属マーカーを用いない非侵襲的ハイブリッド型マーカーレス動態追尾照射の基礎的研究	川口 英夫	放射線科	2,100,000	補委	日本学術振興会
照射後血中オステオポンチンを指標としたHIF-1阻害剤併用放射線治療法の開発	佐藤 まり子	放射線科	200,000	補委	日本学術振興会
麻酔薬ケタミンのNatural Killer cell活性に与える影響	丹羽 英智	麻酔科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
糖転移酵素を分子標的とする膀胱癌治療法の実験的研究	鈴木 裕一郎	泌尿器科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
膀胱癌の浸潤機構におけるinvadopodiaの意義と治療応用	山本 勇人	泌尿器科	1,200,000	補委	日本学術振興会
Phage display法を利用した前立腺癌神経周囲浸潤の責任分子の同定	岡本 亜希子	泌尿器科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
酸化ストレスを指標とした網膜色素変性の新規治療法の評価	伊藤 忠	眼科学講座	1,700,000	補委	日本学術振興会
口腔癌の癌微小環境における時計遺伝子DECの分子機構	古舘 健	歯科口腔外科	1,200,000	補委	日本学術振興会
化学療法誘発口腔粘膜炎症制御に向けたRIG-Iとがん関連線維芽細胞の機構解明	久保田 耕世	歯科口腔外科	1,100,000	補委	日本学術振興会
障害児者医療従事者確保に係る特別研修及び特別研究	石橋 恭之	整形外科科学講座	20,000,000	補委	青森県
周産期医療従事者増加に係る調査研究	伊藤 悦朗	小児科学講座	10,000,000	補委	青森県
周産期医療従事者増加に係る調査研究	水沼 英樹	産科婦人科学講座	10,000,000	補委	青森県
災害医療人材育成業務委託	花田 裕之	救急・災害医学講座	967,000	補委	青森県
災害医療訓練プログラム策定業務	花田 裕之	救急・災害医学講座	2,778,000	補委	青森県
緊急スクールカウンセラー等派遣事業	中村 和彦	神経精神医学講座	3,338,620	補委	文部科学省初等中等教育局
術後補助化学療法におけるフツピリミジン系薬剤の有用性に関する比較臨床試験(治療切除直腸癌に対するUFT切除不能大腸癌1次治療におけるTS-1, irinotecan, bevacizumab併用療法の有用性を検証する臨床第Ⅲ相試験)	村田 暁彦	消化器外科学講座	54,000	補委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
ステント支援脳動脈瘤塞栓術の効果と安全性に関する多施設共同前向き観察研究(研究略称:ESSENCE)	高畑 武功	腫瘍内科学講座	747,698	補委	特定非営利活動法人東京がん化学療法研究会(TCOG)
ダウン症に合併するTAMをモデルとしたがんの発症と退縮に関わるエピジェネティクスの解析	大熊 洋揮	脳神経外科学講座	81,692	補委	財団法人先端医療振興財団
FDG-PETによるアルツハイマー病の診断に関する多施設共同研究—SDF-PET コアスタディ	伊藤 悦朗	小児科学講座	3,900,000	補委	科学技術振興機構
小児がん等がん調査事業	東海林 幹夫	脳神経内科学講座	3,000,000	補委	国立長寿医療研究センター
平成26年度弘前市5歳児発達健診事業委託	伊藤 悦朗	小児科学講座	4,000,000	補委	青森県
被災者のヘルスリテラシー向上を目的とした地域の医療防災ネットワークの構築 —避難所・病院・自治体・薬局を	中村 和彦	神経精神医学講座	2,000,000	補委	弘前市
発達障害を含む児童・思春期精神疾患の薬物治療ガイドライン作成と普及	福田 幾夫	胸部心臓血管外科学講座	869,566	補委	科学技術振興機構
	中村 和彦	神経精神医学講座	8,640,000	補委	厚生労働省

小計29件



家族性アルツハイマー病に関する縦断的観察コホート研究	東海林 幹夫	脳神経内科学講座	2,000,000	補 委	大阪市立大学
筋強直性ジストロフィー治験推進のための臨床基盤整備の研究	奥村 謙	循環呼吸腎臓内科学講座	250,000	補 委	刀根山病院
表皮水疱症に対する新たな医薬品の実用化に関する研究	澤村 大輔	皮膚科学講座	3,000,000	補 委	大阪大学
金属射出成形法による生体材料製品の開発	石橋 恭之	整形外科科学講座	924,000	補 委	科学技術振興機構

小計4件

合計87件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Funamizu A1, Fukui A, Kamoi M, Fuchinoue K, Yokota M, Fukuhara R, Mizunuma H.	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Expression of Natural Cytotoxicity Receptors on Peritoneal Fluid Natural Killer Cell and Cytokine Production by Peritoneal Fluid Natural Killer Cell in Women with Endometriosis.	Am J Reprod Immunol. 2014 Apr;71(4):359-67. doi: 10.1111
2	Saito Y1, Taniguchi S1, Watanabe K1, Fukui K1, Fukuda I2.	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University School of Medicine	Bilateral Axillary Arterial Aneurysms in Siblings with Marfan Syndrome.	Ann Vasc Surg. 2014 Apr;28(3):740.e13-6. doi: 10.1016
3	Higuma T, Abe N, Hanada K, Yokoyama H, Tomita H, Okumura K.	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Stent malapposition, as a potential mechanism of very late stent thrombosis after bare-metal stent implantation: A case report.	Cardiovasc Revasc Med. 2014 Apr;15(3):178-81. doi: 10.1016
4	Sutoh Yoneyama M1, Hatakeyama S1, Habuchi T2, Inoue T2, Nakamura T3, Funyu T4, Wiche G5, Ohyama C1, Tsuboi S6.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Vimentin intermediate filament and plectin provide a scaffold for invadopodia, facilitating cancer cell invasion and extravasation for metastasis.	Eur J Cell Biol. 2014 Apr;93(4):157-69. doi: 10.1016
5	Tokui N1, Yoneyama MS1, Hatakeyama S1, Yamamoto H1, Koie T1, Saitoh H2, Yamaya K2, Funyu T2, Nakamura T3, Ohyama C1, Tsuboi S1.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Extravasation during bladder cancer metastasis requires cortactin-mediated invadopodia formation.	Mol Med Rep. 2014 Apr;9(4):1142-6. doi: 10.3892
6	Seino H1, Ono S1, Miura H1, Morohashi S2, Wu Y2, Tsushima F1, Takai Y1, Kijima H2.	Department of Radiology and Radiation Oncology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Incidental prostate 18F-FDG uptake without calcification indicates the possibility of prostate cancer.	Oncol Rep. 2014 Apr;31(4):1517-22. doi: 10.3892
7	Kowatari K, Nitobe T, Ono A, Tanaka T, Itabashi T, Ishibashi Y.	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University School of Medicine	Percutaneous Ultrasonographic Evaluation of the Spinal Cord After Cervical Laminoplasty.	Spine (Phila Pa 1976). 2014 Apr 1;39(7):E434-40. doi: 10.1097
8	Wakiya T1, Sanada Y2, Urahashi T2, Ihara Y2, Yamada N2, Okada N2, Toyoki Y3, Hakamada K3, Mizuta K2.	Department of Gastroenterological Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Iron overload after pediatric liver transplantation: a case report.	Transplant Proc. 2014 Apr;46(3):973-6. doi: 10.1016
9	Tomita T, Norio YF, Sato Y, Nakagami T, Tsuchimine S, Kaneda A, Kaneko S.	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University	Sex differences in the prediction of the effectiveness of paroxetine for patients with major depressive disorder identified using a receiver operating characteristic curve analysis for early response.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2014 Apr 8;10:599-606. doi: 10.2147

小計9件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
10	Shimamura N, Naraoka M, Matsuda N, Kakuta K, Ohkuma H.	Department of Neurosurgery, Hirosaki University School of Medicine	Prophylactic Intra-Arterial Injection of Vasodilator for Asymptomatic Vasospasm Converts the Patient to Symptomatic Vasospasm due to Severe Microcirculatory Imbalance.	Biomed Res Int. 2014;2014:382484. doi: 10.1155
11	Yamamoto AI, Saito N, Yamauchi Y, Takeda M, Ueki S, Itoga M, Kojima K, Kayaba H.	Department of Clinical Laboratory Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Flow Cytometric Analysis of Red Blood Cell Osmotic Fragility.	J Lab Autom. 2014 Apr 21
12	Okumura KI, Inoue H, Atarashi H, Yamashita T, Tomita H, Origasa H; for the J-RHYTHM Registry Investigators..	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Validation of CHA2DS2-VASc and HAS-BLED Scores in Japanese Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation.	Circ J. 2014 Apr 22
13	Koie T, Ohyama CI, Yamamoto H, Imai A, Hatakeyama S, Yoneyama T, Hashimoto Y, Yoneyama T, Tobisawa Y, Aoki M, Takai Y.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Both radical prostatectomy following treatment with neoadjuvant LHRH agonist and estramustine and radiotherapy following treatment with neoadjuvant hormonal therapy achieved favorable oncological outcome in high-risk prostate cancer: a propensity-score matching analysis.	World J Surg Oncol. 2014 Apr 30;12(1):134. doi: 10.1186
14	Watanabe JI, Yokoyama Y, Futagami M, Mizunuma H, Yoshioka H, Washiya K, Hana K, Endou H, Okayasu I.	Division of Medical Life Sciences, Department of Pathologic Analysis, Graduate School of Health Sciences, and † Department of Obstetrics and Gynecology, Graduate School of Medicine, Hirosaki University, Hirosaki	L-type Amino Acid Transporter 1 Expression Increases in Well-Differentiated but Decreases in Poorly Differentiated Endometrial Endometrioid Adenocarcinoma and Shows an Inverse Correlation With p53 Expression.	Int J Gynecol Cancer. 2014 May;24(4):659-63. doi: 10.1097
15	Kumagai GI, Ono A, Numasawa T, Wada K, Inoue R, Iwasaki H, Iwane K, Matsuzaka M, Takahashi I, Umeda T, Nakaji S, Ishibashi Y.	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Association between roentgenographic findings of the cervical-spine and neck symptoms in a Japanese community population.	J Orthop Sci. 2014 May;19(3):390-7. doi: 10.1007
16	Sasaki EI, Ono A, Yokoyama T, Wada K, Tanaka T, Kumagai G, Iwasaki H, Takahashi I, Umeda T, Nakaji S, Ishibashi Y.	Department of Orthopedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Prevalence and symptom of ossification of posterior longitudinal ligaments in the Japanese general population.	J Orthop Sci. 2014 May;19(3):405-11. doi: 10.1007
17	Koie TI, Ohyama C, Yamamoto H, Imai A, Hatakeyama S, Yoneyama T, Hashimoto Y, Yoneyama T, Tobisawa Y.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Neoadjuvant gemcitabine and carboplatin followed by immediate cystectomy may be associated with a survival benefit in patients with clinical T2 bladder cancer.	Med Oncol. 2014 May;31(5):949. doi: 10.1007

小計8件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
18	Yoneyama T1, Ohyama C2, Hatakeyama S1, Narita S3, Habuchi T3, Koie T1, Mori K1, Hidari K14, Yamaguchi M5, Suzuki T5, Tobisawa Y1.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Measurement of aberrant glycosylation of prostate specific antigen can improve specificity in early detection of prostate cancer.	Biochem Biophys Res Commun. 2014 May 9. pii: S0006-291X(14)00770-0. doi: 10.1016
19	Naraoka M, Matsuda N, Shimamura N, Asano K, Ohkuma H.	Department of Neurosurgery, Hirosaki University.	The Role of Arterioles and the Microcirculation in the Development of Vasospasm after Aneurysmal SAH.	Biomed Res Int. 2014;2014:253746
20	Aoki M1, Takai Y2, Narita Y1, Hirose K1, Sato M1, Akimoto H1, Kawaguchi H1, Hatayama Y1, Miura H1, Ono S1.	Department of Radiology and Radiation Oncology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Correlation between tumor size and blood volume in lung tumors: a prospective study on dual-energy gemstone spectral CT imaging.	J Radiat Res. 2014 May 14. pii: rru026.
21	Saito Y1, Fukuda I2, Fukui K1, Minakawa M1, Daitoku K1, Suzuki Y1.	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University School of Medicine	Hybrid operation for combined aortic arch aneurysm and aortic root dilation in a Jehovah's Witness patient.	Ann Vasc Surg. 2014 May 22. pii: S0890-5096(14)00258-1. doi: 10.1016
22	Tomita T, Yasui-Furukori N, Nakagami T, Tsuchimine S, Ishioka M, Kaneda A, Sugawara N, Kaneko S.	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine	The Influence of 5-HTTLPR Genotype on the Association between the Plasma Concentration and Therapeutic Effect of Paroxetine in Patients with Major Depressive Disorder.	PLoS One. 2014 May 23;9(5):e98099. doi: 10.1371
23	Yoneyama T1, Tobisawa Y, Yoneyama T, Yamamoto H, Imai A, Hatakeyama S, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Carboplatin-based combination chemotherapy for elderly patients with advanced bladder cancer.	Int J Clin Oncol. 2014 May 29.
24	Koyama M1, Murata A, Sakamoto Y, Morohashi H, Takahashi S, Yoshida E, Hakamada K.	Department of Gastroenterological Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Long-Term Clinical and Functional Results of Intersphincteric Resection for Lower Rectal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2014 Jun;21 Suppl 3:S422-8. doi: 10.1245
25	Kageyama K1, Usui T2, Yoshizawa K3, Daimon M4.	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine Department of Endocrinology, Metabolism, and Infectious Diseases, Hirosaki University School of Medicine & Hospital	A Novel Deletion Mutation in the Men1 Gene in a Patient with Prolactinoma and a Family of Pancreatic Tumors.	Endocr Pract. 2014 Jun 16:1-16
26	Kimura M1, Sasaki S2, Owada S1, Horiuchi D1, Sasaki K1, Itoh T2, Ishida Y1, Kinjo T1, Tomita H1, Okumura K3.	Department of Cardiology, Department of Advanced Management of Cardiac Arrhythmias, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Comparison of Lesion Formation between Contact Force-Guided and non-Guided Circumferential Pulmonary Vein Isolation: A Prospective, Randomized Study.	Heart Rhythm. 2014 Jun;11(6):984-91. doi: 10.1016

小計9件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
27	Sakamoto Y1, Shimoyama T, Nakagawa S, Mikami T, Fukuda S.	Department of Gastroenterology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Proton pump inhibitor treatment decreases the incidence of upper gastrointestinal disorders in elderly Japanese patients treated with NSAIDs.	Intern Med. 2014;53(11):1107-11
28	Yokota T1, Tomita H, Mori Y, Kudo T, Hiraga H, Suto N, Higuma T, Abe N, Hanada H, Osanai T, Okumura K.	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Imidapril and enalapril similarly inhibit plasma matrix metalloproteinase activities and attenuate left ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction.	J Cardiovasc Pharmacol. 2014 Jun;63(6):528-32. doi: 10.1097
29	Matsuda N1, Ohkuma H, Naraoka M, Munakata A, Shimamura N, Asano K.	Department of Neurosurgery, Hirosaki University School of Medicine	Role of oxidized LDL and lectin-like oxidized LDL receptor-1 in cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage.	J Neurosurg. 2014 Jun 20:1-10.
30	Horiuchi D, Sasaki S, Kinjo T, Ishida Y, Itoh T, Sasaki K, Owada S, Kimura M, Okumura K.	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Rhythm and rate control effects of intravenous amiodarone for atrial fibrillation complicated by acutely decompensated heart failure.	Journal of Arrhythmia 2014;30:167-172.
31	Imanishi K1, Yoneyama MS1, Hatakeyama S1, Yamamoto H1, Koie T1, Saitoh H2, Yamaya K2, Funyu T2, Nakamura T3, Ohyama C1, Tsuboi S1.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Invadopodia are essential in transurothelial invasion during the muscle invasion of bladder cancer cells.	Mol Med Rep. 2014 Jun;9(6):2159-65. doi: 10.3892
32	Koie T1, Ohyama C2, Yamamoto H2, Hatakeyama S2, Imai A2, Yoneyama T2, Hashimoto Y2, Kitayama M3, Hirota K3.	Department of Urology, Hirosaki University, Graduate School of Medicine	Significance of preoperative butyrylcholinesterase as an independent predictor of survival in patients with muscle-invasive bladder cancer treated with radical cystectomy.	Urol Oncol. 2014 Jun 17. pii: S1078-1439(14)00096-9. doi: 10.1016
33	Saito J1, Kitayama M, Oishi M, Kudo T, Sawada M, Hashimoto H, Hirota K.	Department of Anesthesiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	The accuracy of non-invasively continuous total hemoglobin measurement by pulse CO-Oximetry undergoing acute normovolemic hemodilution and reinfusion of autologous blood.	J Anesth. 2014 Jun 28.
34	Sasaki E, Tsuda E, Yamamoto Y, Maeda S, Inoue R, Chiba D, Okubo N, Takahashi I, Nakaji S, Ishibashi Y.	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Nocturnal knee pain increases with the severity of knee osteoarthritis, disturbing patient sleep quality.	Arthritis Care Res (Hoboken). 2014 Jul;66(7):1027-32. doi: 10.1002
35	Sugawara N., Tanaka O., Yasui-Furukori N.	Department of Neuropsychiatry	Effects of the 2004 postgraduate training program on the interprefectural distribution of psychiatrists in Japan	Psychiatry and Clinical Neurosciences (Impact Factor: 2.04). 07/2014; DOI: 10.1111

小計9件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
36	Tomita T1, Yasui-Furukori N, Nakagami T, Tsuchimine S, Ishioka M, Kaneda A, Nakamura K, Kaneko S.	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University	Therapeutic Reference Range for Plasma Concentrations of Paroxetine in Patients With Major Depressive Disorders.	Ther Drug Monit. 2014 Aug;36(4):480-5. doi: 10.1097
37	Hanada II, Terui K, Ikeda F, Toki T, Kanezaki R, Sato T, Kamio T, Kudo K, Sasaki S, Takahashi Y, Hayashi Y, Inukai T, Kojima S, Koike K, Kosaka Y, Kobayashi M, Imaizumi M, Mitsui T, Hori H, Hara J, Horibe K, Nagai JI, Goto H, Ito E.	Department of Pediatrics, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Gene alterations involving the CRLF2-JAK pathway and recurrent gene deletions in Down syndrome-associated acute lymphoblastic leukemia in Japan.	Genes Chromosomes Cancer: 2014 Nov;53(11):902-10. doi: 10.1002
38	Kudo N1, Matsubara A2, Abe T1, Inoue T1, Takahata J1.	Department of Otorhinolaryngology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Laryngeal neuroma in multiple endocrine neoplasia type 2B.	Auris Nasus Larynx. 2014 Aug;41(4):389-91. doi: 10.1016
39	Moritsugu R, Tamai K, Nakano H, Aizu T, Nakajima K, Yamazaki T, Sawamura D.	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Functional analysis of the nuclear localization signal of the POU transcription factor Skn-1a in epidermal keratinocytes.	Int J Mol Med. 2014 Aug;34(2):539-44. doi: 10.3892
40	Tomita T1, Ishioka M1, Kaneda A1, Sugawara N1, Nakagami T1, Nakamura K1, Yasui-Furukori N2.	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University	An investigation of Temperament and Character Inventory items for predicting the response to paroxetine treatment in patients with major depressive disorder.	J Affect Disord. 2014 Aug;165:109-13. doi: 10.1016
41	Ishida Y, Sasaki S, Kinjo T, Itoh T, Sasaki K, Horiuchi D, Owada S, Kimura M, Okumura K.	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Clinical features and predictors of lethal ventricular tachyarrhythmias after cardiac resynchronization therapy for primary prevention of sudden cardiac death.	Journal of Arrhythmia Volume 30, Issue 5, October 2014, Pages 367-371
42	Kageyama K1, Oki Y, Nigawara T, Suda T, Daimon M.	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Pathophysiology and treatment of subclinical Cushing's disease and pituitary silent corticotroph adenomas [Review].	Endocr J. 2014;61(10):941-8
43	Murasawa S1, Kageyama K2, Sugiyama A1, Ishigame N1, Niiooka K1, Suda T1, Daimon M1.	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Inhibitory effects of SOM230 on adrenocorticotrophic hormone production and corticotroph tumor cell proliferation in vitro and in vivo.	Mol Cell Endocrinol. 2014 Jul 8;394(1-2):37-46. doi: 10.1016
44	Ozaki T1, Nakazawa M, Kudo T, Hirano S, Suzuki K, Ishiguro S1.	Department of Ophthalmology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Protection of Cone Photoreceptor M-Opsin Degradation with 9-Cis- $\beta$ -Carotene-Rich Alga Dunaliella bardawil in Rpe65-/- Mouse Retinal Explant Culture.	Curr Eye Res. 2014 Dec;39(12):1221-31. doi: 10.3109

小計9件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
45	Ishida Y, Sasaki S, Tomita H, Kimura M, Owada S, Horiuchi D, Sasaki K, Itoh T, Endo T, Suzuki A, Tateyama S, Kinjo T, Okumura K.	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	A case of inappropriate implantable cardioverter defibrillator shock due to epileptic seizures: A possible limitation of the Wavelet discrimination algorithm.	Journal of Arrhythmia Volume 30, Issue 6, December 2014, Pages 509-512
46	Koie T1, Mitsuzuka K, Yoneyama T, Narita S, Kawamura S, Kaiho Y, Tsuchiya N, Tochigi T, Habuchi T, Arai Y, Ohyama C, Yoneyama T, Tobisawa Y.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Prostate-specific antigen density predicts extracapsular extension and increased risk of biochemical recurrence in patients with high-risk prostate cancer who underwent radical prostatectomy.	Int J Clin Oncol. 2015 Feb;20(1):176-81. doi: 10.1007
47	Tobishima H, Hatayama T, Ohkuma H.	Department of Neurosurgery, Hirosaki University School of Medicine	Relation between the Persistence of an Abnormal Muscle Response and the Long-Term Clinical Course after Microvascular Decompression for Hemifacial Spasm.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2014 Jun 17;54(6):474-82
48	Shimamura N, Ohkuma H.	Department of Neurosurgery, Hirosaki University School of Medicine	Phenotypic Transformation of Smooth Muscle in Vasospasm after Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage.	Transl Stroke Res. 2014 Jun;5(3):357-64. doi: 10.1007
49	Kudo K, Takahashi T, Suzuki S.	Department of Neurosurgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	The Changes of c-Fos Expression by Motor Cortex Stimulation in the Deafferentation Pain Model.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2014;54(7):537-44
50	Katayama K, Asano K, Ohkuma H, Terui K, Sasaki S, Sato T, Ito E, Komori T.	Department of Neurosurgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	A case of pediatric optic pathway oligodendroglioma presenting widespread invasion and dissemination in the cerebrospinal fluid.	Brain Tumor Pathol. 2014 Jul;31(3):208-14. doi: 10.1007
51	Minakawa S., Kaneko T., Rokunohe D., Nakajima K., Matsuzaki Y., Nakano H., Hashimoto T., Sawamura D.	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Pemphigoid gestationis with prepartum flare	The Journal of Dermatology (Impact Factor: 1.77). 07/2014; DOI: 10.1111
52	Hagii J1, Tomita H1, Metoki N1, Saito S1, Shiroto H1, Hitomi H1, Kamada T1, Seino S1, Takahashi K1, Baba Y1, Sasaki S1, Uchizawa T1, Iwata M1, Matsumoto S1, Osanai T1, Yasujima M1, Okumura K2.	Department of Cardiology	Characteristics of Intracerebral Hemorrhage During Rivaroxaban Treatment: Comparison With Those During Warfarin.	Stroke. 2014 Sep;45(9):2805-7. doi: 10.1161
53	Suzuki A1, Osanai T2, Tanaka M2, Tomita H1, Magota K3, Okumura K2.	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Coupling factor 6 attenuates CXCR4 expression through the HIF-1 $\alpha$ and c-Src pathways and promotes endothelial apoptosis and inflammation.	Hypertens Res. 2014 Aug;37(8):708-15. doi: 10.1038

小計9件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
54	Kitayama M, Wada M, Hashimoto H, Kudo T, Yakoshi C, Hirota K.	Department of Anesthesiology, Hirosaki University Medicine Hospital	Plasma ropivacaine concentrations after ultrasound-guided transversus abdominis plane block for open retropubic prostatectomy.	J Anesth. 2014 Aug;28(4):576-9. doi: 10.1007
55	Kitayama M, Wada M, Hashimoto H, Kudo T, Takada N, Hirota K.	Department of Anesthesiology, Hirosaki University Medicine Hospital	Effects of adding epinephrine on the early systemic absorption kinetics of local anesthetics in abdominal truncal blocks.	J Anesth. 2014 Aug;28(4):631-4. doi: 10.1007
56	Tanaka T, Koie T1, Iwabuchi I, Ogasawara M, Kawaguchi T, Ohyama C.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Primary leiomyosarcoma of a horseshoe kidney in a woman with Turner syndrome: a case report.	BMC Res Notes. 2014 Aug 4;7(1):491.
57	Koie T1, Mitsuzuka K., Narita S, Yoneyama T, Kawamura S, Tsuchiya N, Tochigi T, Habuchi T, Arai Y, Ohyama C.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Efficiency of pretreatment risk stratification systems for prostate cancer in a Japanese population treated with radical prostatectomy.	Int J Urol. 2015 Jan;22(1):70-3. doi: 10.1111
58	Sasaki N, Tsuda E, Yamamoto Y, Maeda S, Ishibashi Y.	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Severe valgus knee deformity caused by chondronecrosis after using a radiofrequency device.	J Orthop Sci. 2014 Nov;19(6):1046-50. doi: 10.1007
59	Sugawara N1, Yasui-Furukori N, Sato Y, Saito M, Furukori H, Nakagami T, Ishioka M, Kaneko S.	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine	Dietary patterns are associated with obesity in Japanese patients with schizophrenia.	BMC Psychiatry. 2014 Jun 20;14:184. doi: 10.1186
60	Mizukami H1, Yagihashi S1.	Department of Pathology and Molecular Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Exploring a new therapy for diabetic polyneuropathy - the application of stem cell transplantation.	Front Endocrinol (Lausanne). 2014 Apr 9;5:45. doi: 10.3389
61	Watanabe K., Takahashi I., Sawada, K., Okubo N., Matsuzaka, M., Akimoto N., Umeda T., Nakaji, S., Hisada T., Benno, Y...	Department of Gastroenterology and Hematology	Possible Relationship between Percentage of Body Fat and Lactobacillales in Gut Microbiota : Results from a Community-based Study	Hirosaki Med.J. 65:12-20,2014
62	Kimura Y., Matsui J., Matsumura K., Murakami H., Yamashita M., Tanabe J., Murakami H., Tamasawa N., Daimon M.	Department of Endocrinology and Metabolism	Hyperinsulinemia Leads the Elevation of Plasma Aldosterone Concentration Independently with Obesity, Dyslipidemia, and Insulin Resistance in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus	Hirosaki Med.J. 65:35-42,2014
63	Kurosawa M., Sato, J., Mizuki N., Nishizawa Y.	Department of Pediatric Surgery	Current Status of Working Environment and Chronic Fatigue for Nurses in Clinical Care	Hirosaki Med.J. 65:74-81,2014

小計10件



番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
64	Ito R, Kubota K, Sasaki H, Sato H, Kon T, Furudate K, Kobayashi W, Kimura H.	Department of Dentistry and Oral Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	A case of congenital ranula: The importance of timely and precise treatment	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 06/2014; DOI: 10.1016
65	Kijima H1, Wu Y, Yosizawa T, Suzuki T, Tsugeno Y, Haga T, Seino H, Morohashi S, Hakamada K.	Department of Pathology and Bioscience, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Pathological characteristics of early to advanced gallbladder carcinoma and extrahepatic cholangiocarcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2014 Jul;21(7):453-8. doi: 10.1002
66	Mizukami H1, Takahashi K1, Inaba W1, Tsuboi K1, Osonoi S1, Yoshida T1, Yagihashi S2.	Department of Pathology and Molecular Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Involvement of oxidative stress-induced DNA damage, endoplasmic reticulum stress, and autophagy deficits in the decline of $\beta$ -cell mass in Japanese type 2 diabetic patients.	Diabetes Care. 2014 Jul;37(7):1966-74. doi: 10.2337
67	Kijima H1, Wu Y, Yosizawa T, Suzuki T, Tsugeno Y, Haga T, Seino H, Morohashi S, Hakamada K.	Department of Pathology and Bioscience, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Pathological characteristics of early to advanced gallbladder carcinoma and extrahepatic cholangiocarcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2014 Jul;21(7):453-8. doi: 10.1002
68	Yasui-Furukori N1, Kikuchi A1, Katagai H2, Kaneko S1.	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine	The effects of electroconvulsive therapy on tardive dystonia or dyskinesia induced by psychotropic medication: a retrospective study.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2014 Jul 3;10:1209-12. doi: 10.2147
69	Yasui-Furukori N1, Hashimoto K2, Tsuruga K2, Nakamura K2.	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University	Comorbidity of Stevens-Johnson syndrome and neutropenia associated with lamotrigine: a case report.	Gen Hosp Psychiatry. 2014 Nov-Dec;36(6):761.e9-11. doi: 10.1016
70	Kishiya M, Nakamura Y, Ohishi H, Furukawa KI, Ishibashi Y.	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Identification of a novel COL2A1 mutation (c.1744G>A) in a Japanese family: a case report.	J Med Case Rep. 2014 Aug 14;8(1):276.
71	Hashimoto K, Sugawara N, Ishioka M, Nakamura K, Yasui-Furukori N.	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University	The effects of additional treatment with terguride, a partial dopamine agonist, on hyperprolactinemia induced by antipsychotics in schizophrenia patients: a preliminary study.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2014 Aug 22;10:1571-6. doi: 10.2147
72	Ishibashi Y1, Tobisawa Y, Hatakeyama S, Ohashi T, Tanaka M, Narita S, Koie T, Habuchi T, Nishimura SI, Ohyama C, Yoneyama T.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Serum tri- and tetra-antennary N-glycan is a potential predictive biomarker for castration-resistant prostate cancer.	Prostate. 2014 Nov;74(15):1521-9. doi: 10.1002

小計9件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
73	Oishi M1, Kushikata T2, Niwa H3, Yakoshi C1, Ogasawara C1, Calo G4, Guerrini R5, Hirota K3.	Department of Anesthesiology, Hirosaki University Hospital	Endogenous neuropeptide S tone influences sleep-wake rhythm in rats.	Neurosci Lett. 2014 Oct 3;581:94-7. doi: 10.1016
74	Yoshizawa K1, Sugawara N, Yasui-Furukori N, Danjo K, Furukori H, Sato Y, Tomita T, Fujii A, Nakagam T, Sasaki M, Nakamura K.	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine	Relationship between occupational stress and depression among psychiatric nurses in Japan.	Arch Environ Occup Health. 2014 Aug 22:0.
75	Koie T1, Mitsuzuka K, Narita S, Yoneyama T, Kawamura S, Kaiho Y, Tsuchiya N, Tochigi T, Habuchi T, Arai Y, Ohyama C.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	A solitary positive prostate cancer biopsy does not predict a unilateral lesion in radical prostatectomy specimens.	Scand J Urol. 2015 Apr;49(2):103-7. doi: 10.3109
76	Tsuruga K1, Sugawara N1, Yasui-Furukori N1, Takahashi I2, Tsuchimine S1, Kaneda A1, Nakaji S2, Nakamura K1.	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine	A positive correlation between serum amyloid $\beta$ levels and depressive symptoms among community-dwelling elderly individuals in Japan.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2014 Aug 30;10:1621-7. doi: 10.2147
77	Minakawa S1, Kaneko T, Matsuzaki Y, Akasaka E, Mizukami H, Abe Y, Hozumi Y, Suzuki T, Mitsuhashi Y, Sawamura D.	Departments of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Case of oculocutaneous albinism complicated with squamous cell carcinoma, Bowen's disease and actinic keratosis.	J Dermatol. 2014 Sep;41(9):863-4. doi: 10.1111
78	Ishioka M1, Sugawara N1, Kaneda A1, Okubo N2, Iwane K2, Takahashi I2, Yasui-Furukori N1.	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University	The Yamaguchi fox/pigeon-imitation test, a brief cognitive performance rating tool, in a community-dwelling population: normative data for Japanese subjects - a preliminary study.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2014 Sep 11;10:1721-5. doi: 10.2147
79	Shimamura N1, Naraoka M2, Matsuda N2, Ohkuma H2.	Department of Neurosurgery, Hirosaki University School of Medicine	Safety of preprocedural antiplatelet medication in coil embolization of ruptured cerebral aneurysms at the acute stage.	Interv Neuroradiol. 2014 Sep 15;20(4):413-7. doi: 10.15274
80	Sugawara N1, Yasui-Furukori N2, Takahashi I3, Matsuzaka M3, Nakaji S4.	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine	Age and gender differences in the factor structure of the Center for Epidemiological Studies Depression Scale among Japanese working individuals.	Compr Psychiatry. 2015 Jan;56:272-8. doi: 10.1016
81	Yoshikawa T1, Hakamada K, Ogasawara H, Kimura N, Kudo D, Sakamoto Y, Ishido K, Toyoki Y, Morohashi S, Kijima H.	Department of Gastroenterological Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Ex vivo application of endocytoscopy for determining the longitudinal extent of bile duct cancer: a pathological analysis of 28 resected cases.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2015 Jan;22(1):58-67. doi: 10.1002

小計9件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
82	Kusaka A, Koie T, Yamamoto H, Hamano I, Yoneyama T, Hashimoto Y, Ohyama C, Tobisawa Y, Yoneyama T.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Testicular Metastasis of Prostate Cancer: A Case Report.	Case Rep Oncol. 2014 Sep 18;7(3):643-7. doi: 10.1159
83	Matsumura Y, Yokoyama Y1, Hirakawa H, Shigeto T, Futagami M, Mizunuma H.	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	The prophylactic effects of a traditional Japanese medicine, goshajinkigan, on paclitaxel-induced peripheral neuropathy and its mechanism of action.	Mol Pain. 2014 Sep 21;10:61. doi: 10.1186
84	Suzuki A., Osanai T., Tanaka M., Endo T., Murakami K., Tomita H., Okumura K.	Department of Cardiology, Respiratory Medicine and Nephrology	Effect of Coupling Factor 6 on Chemokine Receptors in Vascular Endothelial Cells 65(2/3/4), 119-127, 2014-09-30	Hirosaki Med.J. 65: 119-127 ,2014
85	Tanaka Y., Takanashi S., Morimoto T., Taima K., Nakamura K., Tanaka H., Okumura K.	Department of Cardiology, Respiratory Medicine and Nephrology	Impaired Pulmonary Function in the University Students Who Had Asthma in Childhood	Hirosaki Med.J. 65:128-137,2014
86	Narita N., Matsumiya T., Kon T., Hayakari R., Itoh R., Kubota K., Sakaki H., Furudate K., Yoshida H., Imaizumi T., Kobayashi W., Kimura H.	Department of Dentistry and Oral Surgery	Production of Growth-Related Oncogene Protein- $\alpha$ in a Human Oral Squamous Cell Carcinoma Cell Line Stimulated with Tumor Necrosis Factor- $\alpha$ : Role in Tumor Angiogenesis and Tumor Proliferation	Hirosaki Med.J. 65: 147-155 ,2014
87	Sawada M., Yoshida H., Hirota K.	Department of Anesthesiology, Department of Emergency and Disaster Medicine	Investigation of Bispectral Index Asymmetry in Patients with Cerebral Infarction	Hirosaki Med.J. 65:156-163 ,2014
88	Yakoshi Y., Kudo D., Toyoki Y., Isido K., Kimura N., Wakiya T., Sakuraba S., Yoshizawa T., Sakamoto Y., Kijima H., Hakamada K.	Department of Gastroenterological Surgery	Non-Invasive Quantification of Liver Damage by a Novel Application for Statistical Analysis of Ultrasound Signals	Hirosaki Med.J. 65: 199-208 ,2014
89	Ootani K1, Shimada J, Kitagawa Y, Konno Y, Miura F, Takahashi T, Ito E, Ichinose K, Yonesaka S.	Department of Pediatrics, School of Medicine, Hirosaki University	Congenital left ventricular aneurysm coexisting with left ventricular non-compaction in a newborn.	Pediatr Int. 2014 Oct;56(5):e72-4. doi: 10.1111
90	Daimon M1, Konta T, Oizumi T, Kameda W, Susa S, Terui K, Nigawara T, Kageyama K, Ueno Y, Kubota I, Yamashita H, Kayama T, Kato T.	Department of Endocrinology, Metabolism and Infectious diseases, Hirosaki University School of Medicine and Hospital	Lower aldosterone-renin ratio is a risk factor for total and cancer death in Japanese individuals: the Takahata study.	Clin Endocrinol. (Oxf). 2015 Apr;82(4):489-96. doi: 10.1111
91	Sugiyama A1, Kageyama K, Murasawa S, Ishigame N, Niioka K, Daimon M.	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Inhibition of heat shock protein 90 decreases ACTH production and cell proliferation in AtT-20 cells.	Pituitary. 2014 Oct 4.

小計10件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
92	Tamura R, Yokoyama Y, Yoshida H, Imaizumi T, Mizunuma H.	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	4-Methylumbelliferone inhibits ovarian cancer growth by suppressing thymidine phosphorylase expression.	J Ovarian Res. 2014 Oct 11;7:94. doi: 10.1186
93	Miura H, Ono S, Shibutani K, Seino H, Tsushima F, Kakehata S, Hirose K, Fujita H, Kakuta A, Aoki M, Hatayma Y, Kawaguchi H, Sato M, Takai Y, Kaneko T, Sawamura D.	Department of Radiology, Hirosaki University School of Medicine	Contribution of dynamic sentinel lymphoscintigraphy images to the diagnosis of patients with malignant skin neoplasms in the upper and lower extremities.	Springerplus. 2014 Oct 22;3:625. doi: 10.1186
94	Hashimoto K1, Sugawara N2, Tanaka O2, Nakamura K1, Yasui-Furukori N1.	Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine	Parental bonding and attitudes toward suicide among medical college students in Japan.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2014 Oct 23;10:2015-20. doi: 10.2147
95	Yoshida H1, Yaguchi S2, Matsumoto A3, Hanada H2, Niwa H4, Kitayama M4.	Department of Emergency and Disaster Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine	A modified paravertebral block to reduce risk of mortality in a patient with multiple rib fractures.	Am J Emerg Med. 2015 May;33(5):735.e3-4. doi: 10.1016
96	Kinjo C1, Kaneko T, Korekawa A, Rokunohe A, Aizu T, Matsuzaki Y, Nakano H, Sawamura D.	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Oral lichen planus with antibodies to desmogleins 1 and 3.	J Dermatol. 2015 Jan;42(1):40-1. doi: 10.1111
97	Sasaki S1, Tomita H, Shibutani S, Izumiyama K, Higuma T, Itoh T, Sasaki K, Horiuchi D, Kimura M, Okumura K.	Department of Advanced Management of Cardiac Arrhythmias, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Usefulness of the Wearable Cardioverter-Defibrillator in Patients at High Risk for Sudden Cardiac Death.	Circ J. 2014;78(12):2987-9
98	Yoshida H1, Yaguchi S, Itaya H, Ito K, Hatanaka R, Nakai K, Hirota K.	Department of Emergency and Disaster Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Cannulation needle-induced anterior wall tenting of internal jugular vein causing posterior wall penetration.	J Anesth. 2014 Nov 1.
99	Kubota K., Furudate K., Nakagawa H., Kobayashi W., Kimura H.,	Department of Dentistry and Oral Surgery	Sjögren's syndrome with marked swelling of major salivary glands related to localized AL amyloidosis: A case report and literature review	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 11/2014; DOI: 10.1016
100	Owada S1, Tomita H1, Kinjo T1, Ishida Y1, Itoh T1, Sasaki K1, Horiuchi D2, Kimura M1, Sasaki S2, Okumura K3.	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	CHA2DS2-VASc and HAS-BLED scores and activated partial thromboplastin time for prediction of high plasma concentration of dabigatran at trough.	Thromb Res. 2015 Jan;135(1):62-7. doi: 10.1016
101	Kimura Y1, Tsuda E, Hiraga Y, Yamamoto Y, Maeda S, Ishibashi Y.	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Intraoperative laxity measurements using a navigation system in anatomical double-bundle posterior cruciate ligament reconstruction.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2014 Nov 8.

小計10件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
102	Tsuchimine S1, Kaneda A1, Nakamura K1, Norio YF2.	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University	The relationships between androgens and novelty seeking in healthy Japanese men.	Psychiatry Res. 2015 Jan 30;225(1-2):175-8. doi: 10.1016
103	Tsuchimine S1, Saito M1, Kaneko S1, Yasui-Furukori N2.	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University	Decreased serum levels of polyunsaturated fatty acids and folate, but not brain-derived neurotrophic factor, in childhood and adolescent females with depression.	Psychiatry Res. 2015 Jan 30;225(1-2):187-90. doi: 10.1016
104	Wang R1, Yoshida K, Toki T, Sawada T, Uechi T, Okuno Y, Sato-Otsubo A, Kudo K, Kamimaki I, Kanezaki R, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Terui K, Sato T, Iribe Y, Ohga S, Kuramitsu M, Hamaguchi I, Ohara A, Hara J, Goi K, Matsubara K, Koike K, Ishiguro A, Okamoto Y, Watanabe K, Kanno H, Kojima S, Miyano S, Kenmochi N, Ogawa S, Ito E.	Department of Paediatrics, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Loss of function mutations in RPL27 and RPS27 identified by whole-exome sequencing in Diamond-Blackfan anaemia.	Br J Haematol. 2015 Mar;168(6):854-64. doi: 10.1111
105	Matsushita Y, Yokoyama Y, Yoshida H, Osawa Y, Mizunuma M, Shigeto T, Futagami M, Imaizumi T, Mizunuma H.	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	The level of RECQL1 expression is a prognostic factor for epithelial ovarian cancer.	J Ovarian Res. 2014 Nov 26;7:107. doi: 10.1186
106	Shimoyama T1, Chinda D, Matsuzaka M, Takahashi I, Nakaji S, Fukuda S.	Department of Gastroenterology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Decrease of serum level of gastrin in healthy Japanese adults by the change of Helicobacter pylori infection.	J Gastroenterol Hepatol. 2014 Dec;29 Suppl 4:25-8. doi: 10.1111
107	Tatsuta T1, Endo T, Watanabe K, Hasui K, Sawada N, Igarashi G, Mikami K, Shibutani K, Tsushima F, Takai Y, Fukuda S.	Department of Gastroenterology and Hematology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	A Successful Case of Transcatheter Arterial Embolization with N-butyl-2-cyanoacrylate for Pancreatic Arteriovenous Malformation.	Intern Med. 2014;53(23):2683-7
108	Jin K1, Matsuzaki Y1, Korekawa A1, Rokunohe A1, Aizu T1, Kinjo C1, Nakano H1, Sawamura D1.	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Pompholyx-like manifestation in Churg-Strauss syndrome.	Eur J Dermatol. 2014 Dec 30.
109	Osawa Y1, Yokoyama Y1, Shigeto T1, Futagami M1, Mizunuma H1.	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Decreased expression of carbonyl reductase 1 promotes ovarian cancer growth and proliferation.	Int J Oncol. 2015 Mar;46(3):1252-8. doi: 10.3892

小計8件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
110	Koie T1, Ohyama C, Yamamoto H, Imai A, Hatakeyama S, Yoneyama T, Hashimoto Y, Yoneyama T, Tobisawa Y.	Department of Urology, Graduate School of Medicine, Hirosaki University	Differences in the recurrence pattern after neoadjuvant chemotherapy compared to surgery alone in patients with muscle-invasive bladder cancer.	Med Oncol. 2015 Jan;32(1):421. doi: 10.1007
111	Watanuki Y1, Kageyama K2, Takayasu S1, Matsuzaki Y3, Iwasaki Y4, Daimon M1.	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Ultraviolet B radiation-stimulated urocortin 1 is involved in tyrosinase-related protein 1 production in human melanoma HMV-II cells.	Peptides. 2014 Nov;61:93-7. doi: 10.1016
112	Kamoi M1, Fukui A, Kwak-Kim J, Fuchinoue K, Funamizu A, Chiba H, Yokota M, Fukuhara R, Mizunuma H.	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	NK22 Cells in the Uterine Mid-Secretory Endometrium and Peripheral Blood of Women with Recurrent Pregnancy Loss and Unexplained Infertility.	Am J Reprod Immunol. 2015 Jun;73(6):557-67. doi: 10.1111
113	Tomita T1, Sato Y, Nakagami T, Tsuchimine S, Kaneda A, Kaneko S, Nakamura K, Yasui-Furukori N.	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University	Effects of Age on Paroxetine Efficacy in Patients With Major Depressive Disorder Who Do Not Exhibit an Early Response to Treatment.	Clin Neuropharmacol. 2015 Jan-Feb;38(1):6-10. doi: 10.1097
114	Kimura N1, Toyoki Y, Ishido K, Kudo D, Yakoshi Y, Tsutsumi S, Miura T, Wakiya T, Hakamada K.	Department of Gastroenterological Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Perioperative Blood Transfusion as a Poor Prognostic Factor After Aggressive Surgical Resection for Hilar Cholangiocarcinoma.	J Gastrointest Surg. 2015 May;19(5):866-79. doi: 10.1007
115	Tone K1, Kojima K, Hoshiai K, Kijima H, Kurose A.	Department of Pathology, Hirosaki University Hospital, Hirosaki	Utility of intraoperative cytology of resection margins in biliary tract and pancreas tumors.	Diagn Cytopathol. 2015 May;43(5):366-73. doi: 10.1002
116	Yoshizawa T1, Toyoki Y2, Hirai H1, Haga T1, Toba T1, Sakuraba S1, Okano K1, Wu Y1, Seino H1, Morohashi S1, Hakamada K2, Kijima H1.	Department of Pathology and Bioscience, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Invasive micropapillary carcinoma of the extrahepatic bile duct and its malignant potential.	Oncol Rep. 2014 Oct;32(4):1355-61. doi: 10.3892
117	Wu Y1, Sato H1, Suzuki T1, Yoshizawa T1, Morohashi S1, Seino H1, Kawamoto T2, Fujimoto K2, Kato Y2, Kijima H1.	Department of Pathology and Bioscience, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Involvement of c-Myc in the proliferation of MCF-7 human breast cancer cells induced by bHLH transcription factor DEC2.	Int J Mol Med. 2015 Mar;35(3):815-20. doi: 10.3892
118	Koie T1, Mitsuzuka K, Yoneyama T, Narita S, Kawamura S, Kaiho Y, Tsuchiya N, Tochigi T, Habuchi T, Arai Y, Ohyama C, Yoneyama T, Tobisawa Y.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Neoadjuvant luteinizing-hormone-releasing hormone agonist plus low-dose estramustine phosphate improves prostate-specific antigen-free survival in high-risk prostate cancer patients: a propensity score-matched analysis.	Int J Clin Oncol. 2015 Feb 15

小計9件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
119	Tanaka T1, Yamamoto H1, Imai A1, Shingo H1, Yoneyama T1, Koie T1, Hashimoto Y1, Ohyama C1.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	A case of primary renal carcinoid tumor.	Case Rep Urol. 2015;2015:736213. doi: 10.1155
120	Saito J1, Noguchi S, Matsumoto A, Jinushi K, Kasai T, Kudo T, Sawada M, Kimura F, Kushikata T, Hirota K.	Department of Anesthesiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Impact of robot-assisted laparoscopic prostatectomy on the management of general anesthesia: efficacy of blood withdrawal during a steep Trendelenburg position.	J Anesth. 2015 Feb 22
121	Korekawa A1, Nakano H, Aizu T, Kitamura H, Harada K, Sawamura D.	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	A reddish, pedunculated, granulomatous nodule on the nasal dorsum.	Clin Exp Dermatol. 2015 Feb 22. doi: 10.1111
122	Sawano T, Shimizu T, Yamada T, Nanashima N, Miura T, Morohashi S, Kudo D, Hui FM, Kijima H, Hakamada K, Tsuchida S.	Department of Gastroenterological Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Fatty acid synthase-positive hepatocytes and subsequent steatosis in rat livers by irinotecan.	Oncol Rep. 2015 Feb 20. doi: 10.3892/or.2015.3814.
123	Futagami M1, Yokoyama Y, Iino K, Aoki M, Shoji T, Sugiyama T, Ariga H, Tokunaga H, Takano T, Watanabe Y, Yaegashi N, Jingu K, Sato N, Terada Y, Anbai A, Ohta T, Kurachi H, Kuroda Y, Nishiyama H, Fujimori K, Watanabe T, Sato H, Tase T, Wada H, Mizunuma H.	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Investigation of the clinicopathological features of squamous cell carcinoma of the vulva: a retrospective survey of the Tohoku Gynecologic Cancer Unit.	Int J Clin Oncol. 2015 Feb 24.
124	Tateyama S, Higuma Takumi, Endo Tomohide, Shibutani Shuji, Hanada Kenji, Yokoyama Hiroaki, Yamada Masahiro, Abe Naoki, Sasaki Shingo, Kimura Masaomi, Okumura Ken	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Prognostic impact of atrial fibrillation in patients with acute myocardial infarction(和訳中)(英語)(原著論文)	Journal of Arrhythmia (1880-4276)30巻6号 Page460-465(2014.12)
125	Mizunuma M1, Yokoyama Y, Futagami M, Aoki M, Takai Y, Mizunuma H.	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	The pretreatment neutrophil-to-lymphocyte ratio predicts therapeutic response to radiation therapy and concurrent chemoradiation therapy in uterine cervical cancer.	Int J Clin Oncol. 2015 Mar 4.
126	Koyama M1, Murata A, Sakamoto Y, Morohashi H, Hasebe T, Saito T, Hakamada K.	Department of Gastroenterological Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Risk Factors for Anastomotic Leakage After Intersphincteric Resection Without a Protective Defunctioning Stoma for Lower Rectal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2015 Mar 6.

小計8件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
127	Yokoyama Y1, Ito K, Takamatsu K, Takehara K, Nakanishi T, Harano K, Watari H, Susumu N, Aoki D, Saito T; Disease Committee of Uterine Cancer, Japanese Gynecologic Oncology Group.	Department of Obstetrics and Gynecology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	How do Japanese gynecologists view hormone replacement therapy for survivors of endometrial cancer? Japanese Gynecologic Oncology Group (JGOG) survey.	Int J Clin Oncol. 2015 Mar 6.
128	Sato S, Chinda D, Yamai , Satake Ryu, Soma Yasushi, Shimoyama Tadashi, Fukuda Shinsaku	Department of Gastroenterology	A case of severe pseudomembranous colitis diagnosed by colonoscopy after Helicobacter pylori eradication	Clinical Journal of Gastroenterology (1865-7257)7巻3号 Page247-250(2014.06)
129	Higuma T1, Abe N, Tateyama S, Endo T, Shibutani S, Yokoyama H, Hanada K, Yamada M, Tomita H, Hanada H, Osanai T, Kume N, Okumura K.	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Plasma Soluble Lectin-Like Oxidized Low-Density Lipoprotein Receptor-1 as a Novel Prognostic Biomarker in Patients With ST-Segment-Elevation Acute Myocardial Infarction.	Circ J. 2015 Feb 25;79(3):641-8. doi: 10.1253
130	Chinda D1, Sasaki Y, Tatsuta T, Tsushima K, Wada T, Shimoyama T, Fukuda S.	Department of Gastroenterology and Hematology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Perioperative complications of endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in elderly Japanese patients 75 years of age or older.	Intern Med. 2015;54(3):267-72. doi: 10.2169
131	Ishioka M1, Yasui-Furukori N1, Sugawara N1, Furukori H1, Kudo S1, Nakamura K1.	Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Hirosaki University	Hyperprolactinemia during antipsychotics treatment increases the level of coagulation markers.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2015 Feb 24;11:477-84. doi: 10.2147
132	Tanaka H1, Tsuruga K, Imaizumi T.	Department of Pediatrics	Mizoribine in the treatment of pediatric-onset glomerular disease.	World J Pediatr. 2015 May;11(2):108-12. doi: 10.1007/s12011-015-0407-2
133	Yokoyama H1, Tomita H, Nishizaki F, Hanada K, Shibutani S, Yamada M, Abe N, Higuma T, Osanai T, Okumura K.	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Deeply Reinverted T Wave at 14 Days After the Onset of First Anterior Acute Myocardial Infarction Predicts Improved Left Ventricular Function at 6 Months.	Clin Cardiol. 2015 Mar;38(3):157-63. doi: 10.1002/clc.22602
134	Kijima H1, Haga T, Takatsuna M, Ota R, Hakamada K, Fukuda S.	Department of Pathology and Bioscience, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Premalignant lesions of gallbladder.	Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi. 2015;112(3):437-43. doi: 10.11405
135	Kudo T1, Suzuki Y1, Metoki T1, Nakazawa M1.	Department of Ophthalmology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	A case of childhood vitrectomy performed for dense vitreous hemorrhage secondary to leukemia therapy and tumor lysis syndrome.	Case Rep Ophthalmol. 2015 Jan 27;6(1):34-8. doi: 10.1159/000370001
136	Akasaka E1, Okawa Y2, Nakano H3, Takiyoshi N1, Rokunohe D1, Toyomaki Y1, Sawamura D1, Sueki H4.	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Two Japanese familial cases of punctate palmoplantar keratoderma caused by a novel AAGAB mutation, c.191_194delCAAA.	J Dermatol Sci. 2015 May;78(2):156-8. doi: 10.1016/j.jdermsci.2015.02.002



番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
137	Tanaka K1, Oishi M1, Chiba H1, Ino K1, Mizunuma H1	Department of Obstetrics and Gynecology	[121-POS]: Maternal blood pressure as a risk factor of hypertension and hyperlipidemia in later life.	Pregnancy Hypertens. 2015 Jan;5(1):64-5. doi: 10.1016
138	Akasaka E1, Nakano H1, Korekawa A1, Fukui T1, Kaneko T1, Koga H2, Hashimoto T3, Sawamura D1.	Department of Dermatology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Anti-laminin $\gamma$ 1 pemphigoid associated with ulcerative colitis and psoriasis vulgaris showing autoantibodies to laminin $\gamma$ 1; type XVII collagen and laminin-332.	Eur J Dermatol. 2015 Mar 17.
139	Maeda S., Tsuda E., Mizukame H., Yamamoto Y., Inaba W., Sasaki N., Ishibashi Y	Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Histological evaluation of low-intensity pulsed ultrasound on osteochondritis dissecans of the humeral capitellum	Asia-Pacific Journal of Sports Medicine, Arthroscopy, Rehabilitation and Technology 2015,
140	Saito Y., Kowatari R., Minakawa M., Daitoku K., Suzuki Y., Fukuda I	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Hirosaki University School of Medicine	Extra-anatomic bypass with open-plugging stent graft for extensive dissected aortic aneurysm	Journal of Vascular Surgery Cases Volume 1, Issue 1, March 2015, Pages 32-35
141	Kobayashi W1, Teh BG2, Kimura H3, Kakehata S4, Kawaguchi H4, Takai Y5.	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Comparison of Osteoradionecrosis of the Jaw After Superselective Intra-arterial Chemoradiotherapy Versus Conventional Concurrent Chemoradiotherapy of Oral Cancer.	J Oral Maxillofac Surg. 2015 May;73(5):994-1002. doi: 10.1016
142	Tomita H1, Okumura K.	Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine.	Is Low Body Weight a Novel Risk Factor for Thromboembolic Events in Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation?	Circ J. 2015 Apr 24;79(5):960-1. doi: 10.1253
143	Itoga M1, Konno Y2, Moritoki Y3, Saito Y3, Ito W4, Tamaki M3, Kobayashi Y5, Kayaba H1, Kikuchi Y3, Chihara J6, Takeda M7, Ueki S3, Hirokawa M3.	Department of Clinical Laboratory Medicine	G-Protein-Coupled Estrogen Receptor Agonist Suppresses Airway Inflammation in a Mouse Model of Asthma through IL-10.	PLoS One. 2015 Mar 31;10(3):e0123210. doi: 10.1371
144	Shimoyama T1, Takahashi R, Kimura M, Fukuda Y.	Department of Gastroenterology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Study of the mechanisms of a Japanese traditional fermented medicine in the improvement of constipation.	J Gastroenterol Hepatol. 2015 Mar;30 Suppl 1:53-9. doi: 10.1111
145	Saito N1, Itoga M2, Tamaki M3, Yamamoto A2, Kayaba H2.	Department of Clinical Laboratory Medicine	Cough variant asthma patients are more depressed and anxious than classic asthma patients.	J Psychosom Res. 2015 Mar 25. pii: S0022-3999(15)00085-9. doi: 10.1016

小計9件

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
146	Itoh T, Kimura M, Sasaki S, Owada S, Horiuchi D, Sasaki K, Ishida Y, Kinjo T, Okumura K.	Department of Cardiology,Respiratory, Nephrology	High correlation of estimated local conduction velocity with natural logarithm of bipolar electrogram amplitude in the reentry circuit of atrial flutter. J Cardiovasc Electrophysiol.	J Cardiovasc Electrophysiol 2014 Apr;25(4):387-94. doi: 10.1111
147	Suzuki A, Osanai T, Tanaka M, Tomita H, Magota K, Okumura K.	Department of Cardiology,Respiratory, Nephrology	Coupling factor 6 attenuates CXCR4 expression through the HIF-1 $\alpha$ and c-Src pathways and promotes endothelial apoptosis and inflammation. 2014 ;37:708-715.	Hypertens Res 2014 Aug;37(8):708-15. doi: 10.1038
148	Nakamura N, Fujita T, Shimada M, Shimaya Y, Murakami R, Narita I, Osawa H, Yamabe H, Okumura K.	Department of Cardiology,Respiratory, Nephrology	Antineutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis with myelodysplastic syndrome and gastric cancer. 2014;3(5):47.	OA Case Reports. OA Case Reports 2014 May 15;3(5):47
149	Chikazawa S, Tando Y, Matsuhashi Y, Yanagimachi M, Nakamura T, Suda T, Daimon M.	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Tranilast inhibits proliferation of pancreatic stellate cells and activation of pancreatic fibrosis.	Hirosaki Medical Journal, in press (accepted Jan. 2015)
150	Matsumura K, Kimura Y, Murakami H, Yamashita M, Matsuki K, Tanabé J, Murakami H, Matsui J, Tamasawa N, Daimon M.	Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Isolated low-HDL cholesterol in Japanese patients with type 2 diabetes.	Diabetol Int 10.1007/s13340-014-0200-0, 2015
151	Kobayashi T, Sugai M, Mori F, Wakabayashi K, Hakamada K	Department of Pediatric Surgery, Hirosaki University Graduate School of Medicine	A Morphometric Investigation of Pulmonary Sympathetic Innervation in Nitrofen-Induced Congenital Diaphragmatic Hernia Rats	Hirosaki Med J 2014;65(1);74-81
152	Ishibashi Y, Koie T, Fujita N, Satoh T, Mikami J, Hatakeyama S, Ohyama C, Tobisawa Y, Yoneyama T.	Department of Urology, Hirosaki University Graduate School of Medicine	Tubulocystic renal cell carcinoma in the left kidney: a case report.	J Med Case Rep. 2014 Jul 31;8:265. doi: 10.1186
153	Mitsuru Nakazawa	Department of Ophthalmology	New era for molecular diagnosis of retinitis pigmentosa: From research to therapy	Austin J Clin Ophthalmol 2014;1(4):1019.
154	Oishi M, Tanaka K, Chiba H, Ito A, Fukuhara R, Mizunuma H	Department of Obstetrics and Gynecology	Conception by IVF-ET after four previous laparotomies, but requiring extraperitoneal cesarean section at 33 weeks due to hypertension and	Hypertension, Research in Pregnancy Vol. 2 (2014) No. 1 p. 30-32

小計9件



(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 別紙1のとおり	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 74 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 別紙2及び別紙3のとおり	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 15 回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
研修の主な内容 ・平成27年4月からの新倫理指針について	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

# 弘前大学大学院医学研究科 倫理委員会業務手順書

## 弘前大学大学院医学研究科倫理委員会

### 更新履歴

第 1.0 版	平成 22 年 2 月 1 日	施行
第 2.0 版	平成 22 年 4 月 28 日	改正
第 2.1 版	平成 22 年 12 月 22 日	改正
第 2.2 版	平成 23 年 7 月 25 日	改正
第 2.3 版	平成 26 年 7 月 1 日	改正
第 3.0 版	平成 27 年 4 月 1 日	改正

## 目次

1. はじめに	-----	2
2. 委員会の審査	-----	2
(1) 審査事項		
(2) 対象研究		
3. 申請区分	-----	2
4. 委員会の構成及び審査等	-----	3
(1) 本委員会		
(2) 紙上委員会		
5. 審査結果	-----	4
(1) 判定		
(2) 議決要件		
(3) 結果		
6. 承認後の報告等	-----	4
(1) 定期報告		
(2) 自己点検		
(3) 有害事象への対応		
(4) 中止報告		
(5) 終了報告		
7. 記録の管理及び公開	-----	5
8. 健康被害への補償について	-----	5
9. 臨床研究における利益相反について	---	6
10. 申請書受付から審査結果までのながれ	---	6

### 〈参考〉

- ・ 重篤な有害事象への対応方法
- ・ 倫理委員会申請書類

## 1. はじめに

弘前大学大学院医学研究科倫理委員会（以下、委員会）の運営及び審査に関する手順及び記録の保存方法については、本手順書に定めるものとする。委員会の庶務は医学研究科総務グループ（以下、担当事務）において行う。

## 2. 委員会の審査

### (1) 審査事項

委員会において審査する事項は、次のとおりとし、当該審査事項が、医の倫理に関するヘルシンキ宣言及び医学研究に関する倫理指針\*の趣旨に沿って倫理的配慮の下に行われるかどうかについて、倫理的観点及び科学的観点から審査を行う。

- 1) 大学院医学研究科、医学部附属病院に所属する者が、医学研究科及び医学部附属病院において行う医療行為、医学研究及び教育等について※
- 2) 医学研究科における医学・医療の倫理的問題について

※特別な理由により、大学院保健学研究科又は被ばく医療総合研究所に所属する者が、医学研究科、保健学研究科、医学部附属病院及び被ばく医療総合研究所において行う医療行為、医学研究及び教育等について申請があった場合、委員長をもって委員会において審査するかの判断を行う。

\*医学研究に関する倫理指針：

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析に関する倫理指針」、  
「遺伝子治療臨床研究に関する指針」、「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」

### (2) 対象研究

委員会において審査の対象とする研究は、次のとおりとする。

- 1) 遺伝子解析を伴う臨床試験・研究等
- 2) 臓器移植医療
- 3) 生殖医療（日本産科婦人科学会の指針に照らして疑義のあるものに限る。）
- 4) 人を対象とする医学系研究
- 5) 個別症例に対する新医療
- 6) その他

## 3. 申請区分

申請区分は、次のとおりとする。

- (1) 新規
- (2) 申請内容変更
- (3) 再審査

## 4. 委員会の構成及び審査等

委員会は、会合による本委員会と紙上委員会とする。

どちらの委員会でも審査を行うかについては、申請内容を確認し、委員長が判断する（申請書の振り分け）。

開催通知は、申請書振り分けの後、委員長から各委員へ通知する。

## (1) 本委員会

### 1) 開催日

原則として、月1回（8月を除く）最終水曜日に開催する。

申請書類提出期限は、原則として毎月10日とする。ただし、臨床研究利益相反マネジメント委員会での審査を必要とする場合は、当該委員会が定める期限とする。

### 2) 審査事項

本委員会において審査するものは、次のとおりとする。

（「弘前大学大学院医学研究科倫理委員会に関する申合せ」第2）」

- ①遺伝子解析を伴う臨床試験・研究等
- ②臓器移植医療
- ③上記の他、患者等対象者の精神的・肉体的負担が大きいと判断されるもの
- ④その他、委員長が判断したもの

### 3) 成立要件

本委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立するものとする。ただし、緊急に招集された場合は、成立するものとする。

### 4) 審査の方法

月1回（8月を除く）開催する委員会において審査する。

申請者（又は代理人）に委員会への出席を求め、研究計画の概略についての説明を受けた上で審査を行う。

## (2) 紙上委員会

### 1) 開催日

原則として1週間に1度開催する。ただし、生体肝移植など緊急性を要する申請の場合はこの限りではない。

### 2) 審査事項

紙上委員会で審査するものは、次のとおりとする。

- ①新規の研究計画で本委員会で取り扱わなかったもの
- ②過去に承認された研究計画の変更  
（実施期間の延長、共同研究者の変更、検査項目の追加等）※
- ③再審査となったもの
- ④緊急を要するもの

※過去に承認された研究計画のうち、研究期間の変更や共同研究者の変更など、比較的軽微な申請内容変更申請については、委員長において審査し、本委員会にて委員の追認を求めることとする。



### 3) 審査の方法

次の要領により送付した資料を基に行う（書面審査）。審査結果により、委員長が申請者に説明を求める必要があると判断した場合は、本委員会での審査に切り替えて審査を行う。

再審査となった研究計画の再申請があった場合には、全委員による審査を原則とするが、付された条件の内容によっては、委員長の判断により、個別の委員のみによる審査とする。

#### 〈送付要領〉

- ①学外委員（医学分野以外の学内委員含む）：個別に送付する。
- ②学内委員：原則として電子メールによる個別送付とする。意見については、送付した回答書（電子ファイル）に記載し、電子メールにより回答するものとする。ただし、緊急を要するものについては、この限りではない。

## 5. 審査結果

### (1) 判定

審査結果の判定は、次の各号のいずれかとする。

#### 1) 承認

承認された研究期間内において研究実施を認める。

#### 2) 条件付き承認

委員会の意見を遵守することを条件に実施を認める。意見については、申請者に文書で通知する。修正後の申請書類等は、本委員会で報告する。

#### 3) 再審査

委員会の意見に沿うように、申請書等の修正、実施方法の再検討を求める。意見については、申請者に文書で通知する。

再度申請があった場合は、担当事務及び委員長が確認の後、紙上委員会において審査する。

#### 4) 承認不可

倫理的に大きな問題があり、研究実施を認めない。

### (2) 議決要件

本委員会では全会一致を原則とする。

紙上委員会の場合は、各委員への意見を集約の上、最終的に委員長が判断する。

### (3) 結果

審査結果は、委員長から医学研究科長、保健学研究科長または医学部附属病院長へ答申し、申請者へは当該所属長から文書にて通知する。

結果が（1）の2）～4）と判定された場合には、委員会において申請者へ通知する内容（条件）を協議し、最終的に委員長が確認の上、申請者へ通知する。

## 6. 承認後の報告等

### (1) 定期報告

申請者は、毎年8月に「定期報告書（様式7）」を提出する。

委員会では、提出された報告書により、研究の進行状況を確認する。報告内容によっては

研究者に指導等を実施し、当該研究者所属の部局長へ報告する。

なお、対象となる課題は「その時点において実施している研究課題のうち、研究課題をデータベース化した平成19年度以降の研究課題」とする。

## (2) 自己点検

申請者は、毎年8月に「チェックシート（様式8）」を提出する。

委員会では、提出されたチェックシートにより、全研究の自己点検評価を確認し、医学研究科、保健学研究科、医学部附属病院における研究について自己評価を行い、当該研究者所属の部局長に報告する。また、評価内容によっては改善を行う。

なお、対象となる課題は「その時点において実施している研究課題のうち、研究課題をデータベース化した平成19年度以降の研究課題」とする。

## (3) 有害事象への対応

臨床研究及び治療において重篤な有害事象が生じた場合は、「弘前大学大学院医学研究科、大学院保健学研究科および医学部附属病院において実施される臨床研究・治療に関する重篤な有害事象への対応方法について」に基づき対応する。

## (4) 中止報告

申請者は、現在実施している研究課題について、研究を中止した場合には、「臨床研究等中止報告書（様式9）」を提出する。

委員会では、報告書により研究の中止状況を確認する。内容によっては研究者に指導等を実施し、当該研究者所属の部局長に報告する。

## (5) 終了報告

申請者は、平成19年度以降に承認された倫理申請について、研究期間を終了した場合は、終了後半年以内に「臨床研究等終了報告書（様式10）」を提出する。

提出された報告書は、委員長が確認の後、本委員会で報告する。

## 7. 記録の管理及び公開

担当事務は、委員会の開催、審査及び部局長への報告に関する資料を作成し、次の資料を保存する。保存期間は5年間とする。

医学研究科教授会へ報告後、議事要旨の概略を倫理委員会ウェブサイト上に公開する。

- 1) 業務手順書
- 2) 委員会審査の審査対象となった資料
- 3) 委員会議事要旨
- 4) 結果通知書

## 8. 健康被害への補償について

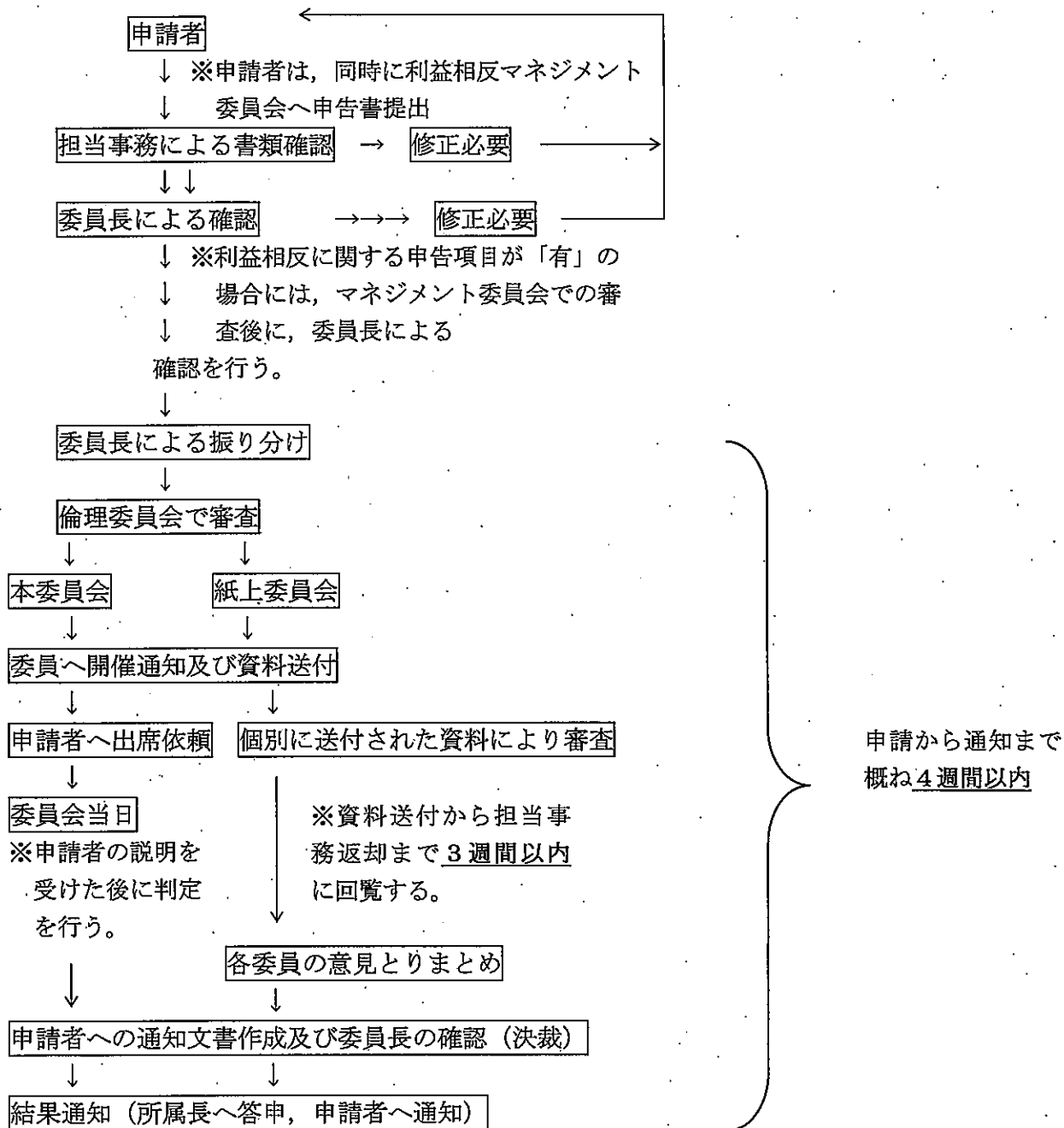
健康被害への補償としての臨床研究保険の取り扱いについては、次のとおりとする。

- 1) 加入の必要性についての判断は、申請者及び申請者所属講座等が行う。
- 2) 委員会では、当該研究計画書へ補償の有無に関する事項が明記されているかどうかについて確認する。内容に対して意見がある場合には、申請者へ通知する。

### 9. 臨床研究における利益相反について

臨床研究における利益相反については、利益相反マネジメント委員会において評価し、倫理委員会では、マネジメント委員会から報告された評価結果の確認を参考に審査を行う。

### 10. 申請書受付から審査結果までのながれ



※紙上委員会の結果については、結果通知後に開催予定の本委員会で報告する。  
(結果通知を資料として委員に回覧する方法とする。)

条件付きで承認した場合に提出された修正書類等についても、同様の方法により本委員会で報告する。

(組織及び任期)

第5条 委員会は次の各号の委員をもって組織する。

- (1) 医学研究科基礎系教授 1名
  - (2) 医学研究科臨床系教授 1名
  - (3) 保健学研究科教授 2名
  - (4) 医学研究科倫理委員会又は医学部附属病院医薬品等臨床研究審査委員会から選出された者 1名
  - (5) 学外有識者 1名
- 2 前項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の任期期間とする。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選出する。
- 4 委員長は、委員会を招集してその議長となる。
- 5 副委員長は、委員長に事故があるときにその職務を代理する。

(会務)

- 第6条 委員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決することによる。
- 3 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(委員会の業務)

第7条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議し、その結果を各医学系部局の長に報告する。

- (1) マネジメントのための調査に関する事項
- (2) マネジメントにおける評価及び指導に関する事項
- (3) マネジメントに関する職員からの相談に関する事項
- (4) マネジメントに関する外部への説明に関する事項
- (5) マネジメントに関する規程等の整備に関する事項
- (6) その他マネジメントに関して必要な事項

(申告)

- 第8条 臨床研究を代表して行う者（以下「研究代表者」という。）は、臨床研究を開始する前に、臨床研究に係る利益相反自己申告書（別紙様式1。以下「申告書」という。）を、医学研究科倫理委員会又は医学部附属病院医薬品等臨床研究審査委員会（以下「倫理委員会等」という。）に提出する審査申請書とともに、所属する医学系部局の長（以下「所属長」という。）に提出しなければならない。
- 2 研究代表者は、研究が終了するまでの期間、毎年4月1日現在における当該臨床研究に係る利益相反の状況について申告書を記載し、所属長に提出しなければならない。
- 3 研究代表者は、申告した内容に変更があった場合、変更申告書（別紙様式2）に変更内容に

別紙

臨床研究に係る利益相反マネジメント規程

(目的)

第1条 この規程は、国立大学法人弘前大学弘前大学利益相反マネジメント規程（平成21年規程第7号。以下「規程」という。）第1条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科及び保健学研究科並びに医学部附属病院（以下「医学系部局」という。）において臨床研究に係る本学職員の利益相反マネジメント（以下「マネジメント」という。）に関し必要な事項を定め、もって臨床研究の適正な推進を図ることを目的とする。

(定義)

- 第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。
- (1) 臨床研究 予防、診断及び治療方法の改善、発病原因及び病態の理解の向上並びに患者の生活の質の向上を目的として実施される医学系研究であって、人を対象とするもの（個人を特定できるデータに関する研究等を含む。）をいう。
  - (2) 臨床研究に係る利益相反 臨床研究を実施する者及びその関係者が臨床研究によって得られる直接的及び間接的利益と、教育・研究を実施する大学人としての責務又は患者の治療のために最善を尽くす医療関係者としての責務などが衝突・相反している状況をいう。

(対象及び基準)

第3条 この規程に基づくマネジメントの対象者は、医学系部局において臨床研究に係る職員とする。

2 マネジメントは、次に掲げる場合を対象として行う。

- (1) 職員が臨床研究に係る産学官連携活動を行う場合（例えば、臨床研究を伴う企業等との共同研究及び委託研究、臨床研究に基づき創出された自らが関わる知的財産権の企業等への譲渡及び実施許諾等を行う場合等が該当する。）で、次のいずれかに該当する場合
  - ① 当該企業等から一定額以上の金銭の供与を受ける場合
  - ② 当該企業等から一定額以上の物品等の供与を受け、又は購入する場合
  - ③ 当該企業等から一定比率以上の株分の株式、出資金、新株予約権及び受益権等を取付する場合
- ④ 当該企業等の役員等に就任し、当該企業等の経営に関与する場合

(2) その他条に規定する委員会がマネジメントの対象と認められた場合

3 マネジメントは、臨床研究を実施するに当たり、被験者及び社会に対し、教育・研究者又は医療関係者としての公正性に著しく疑念を生じさせるか否かを判断基準として行うものとする。

(委員会)

第4条 医学系部局における臨床研究に係る利益相反を適切に管理するため、弘前大学臨床研究利益相反マネジメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

ついて記載し、所屬長に提出しなければならぬ。

4. 臨床研究を共同して行う者（以下「共同研究者」という。）及び委員会委員並びに産学連携及び臨床研究受入に関与する者は、委員会から利益依頼があった場合、所屬長に申告書を提出しなければならない。

（評価、指導等の手続）

第9条 委員会は、所屬長の諮問に基づき、申告書の内容について審議し、利益相反状態の評価結果について倫理委員会等に報告するものとする。

2 委員会は、審議の結果、必要と認められる場合は、研究代表者に対してヒアリングを実施し、利益相反状態の改善に向けた指導を行うことができる。この場合、研究代表者は指導に基づき是正の内容について、答復により委員会へ提出しなければならない。

3 研究代表者は、前項の委員会の指導の内容に異議がある場合、所屬長に対し異議申立を行うことができる。この場合、委員会は、所屬長の諮問に基づき再度審議し、評価結果について倫理委員会等に報告するものとする。

4 委員会は、重大な利益相反状態にある又はそのような状態が危惧されると認められた場合は、所屬長及び全学で設置する利益相反マネジメント委員会へ報告するものとする。

5 委員会委員が研究代表者又は共同研究者である場合は、当該マネジメントに加わることはできない。

（守秘義務等）

第10条 マネジメントに携わる職員等は、マネジメントを通じて知り得た秘密を漏らしてはならない。また、マネジメントに係る業務から離れた後も同様とする。

2 職員等から提出された利益相反に関する申告書等の書類は、受付日から5年間保存するものとし、国立大学法人私前大学保有個人情報管理規程（平成17年規程第4号）の定めるところにより、管理しなければならない。

（事務）

第11条 マネジメントに関する事務は、関係部署との連携の下、医学研究科事務局において行う。

（その他）

第12条 この規程に定めるもののほか、マネジメントの実施に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成21年10月1日から施行する。

2 この規程の施行後、最初に選出される委員の任期は、第5条第2項の規定にかかわらず、同条第1項第1号及び第4号の委員並びに第3号の委員1名については平成22年3月31日までとし、その他の委員については平成23年3月31日までとする。

臨床研究に係る利益相反マネジメント規程

(目的)

第1条 この規程は、国立大学法人弘前大学利益相反マネジメント規程(平成21年規程第7号。以下「規程」という。)第1条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科及び保健学研究科並びに医学部附属病院(以下「医学系部局」という。)において臨床研究に係わる本学職員が利益相反マネジメント(以下「マネジメント」という。)に関し必要な事項を定め、もって臨床研究の適正な推進を図ることを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。  
(1) 臨床研究 予防、診断及び治療方法の改善、疾病原因及び病態の理解の向上並びに患者の生活の質の向上を目的として実施される医学系研究であって、人を対象とするもの(個人を特定できるデータに関する研究等を含む。)をいう。  
(2) 臨床研究に係る利益相反 臨床研究を実施する者及びその関係者が臨床研究によって得られる直接的及び間接的利益と、教育・研究を実施する大学人としての責務又は患者の治療のために最善を尽くす医療関係者としての責務などが衝突・相反している状況をいう。

(対象及び基準)

第3条 この規程に基づくマネジメントの対象者は、医学系部局において臨床研究に係わる職員とする。

- 2 マネジメントは、次に掲げる場合を対象として行う。
- (1) 職員が臨床研究に係わる産学官連携活動を行う場合(例えば、臨床研究を伴う企業等との共同研究及び受託研究、臨床研究に基づき創出された自らが関わる知的財産権の企業等への譲渡及び実施許諾等を行う場合等が該当する。)で、次のいずれかに該当する場合
- ① 当該企業等から一定額以上の金銭の供与を受けられる場合
  - ② 当該企業等から一定額以上の物品等の供与を受け、又は贈入する場合
  - ③ 当該企業等から一定比率以上の持分の株式、出資金、新株予約権及び受益権等を取得する場合
  - ④ 当該企業等の役員等に就任し、当該企業等の経営に関与する場合
- (2) その他次条に規定する委員会がマネジメントの対象と認めた場合
- 3 マネジメントは、臨床研究を実施するに当たり、被験者及び社会に対し、教育・研究者又は医療関係者としての公正性に著しく疑念を生じさせるか否かを判断基準として行うものとする。

(委員会)

第4条 医学系部局における臨床研究に係る利益相反を適切に管理するため、弘前大学臨床研究利益相反マネジメント委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(組織及び任期)

第5条 委員会は次の各号の委員をもって組織する。

- (1) 医学研究科基礎系教授 1名
  - (2) 医学研究科臨床系教授 1名
  - (3) 保健学研究科教授 2名
  - (4) 医学研究科倫理委員会又は医学部附属病院医薬品等臨床研究審査委員会から選出された者 1名
  - (5) 学外有識者 1名
- 2 前項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選出する。
- 4 委員長は、委員会を招集してその議長となる。
- 5 副委員長は、委員長に事故があるときにその職務を代理する。

(会議)

- 第6条 委員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 3 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

(委員会の業務)

第7条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議し、その結果を各医学系部局の長に報告する。

- (1) マネジメントのための調査に関する事項
- (2) マネジメントにおける評価及び指導に関する事項
- (3) マネジメントに関する職員からの相談に関する事項
- (4) マネジメントに関する外部への説明に関する事項
- (5) マネジメントに関する規程等の整備に関する事項
- (6) その他マネジメントに関して必要な事項

(申告)

第8条 臨床研究を代表して行う者(以下「研究代表者」という。)は、臨床研究を開始する前に、臨床研究に係る利益相反自己申告書(別紙様式1。以下「申告書」という。)を、医学研究科倫理委員会又は医学部附属病院医薬品等臨床研究審査委員会(以下「倫理委員会等」という。)に提出する審査申請書とともに、所属する医学系部局の長(以下「所属長」という。)に提出しなければならない。

2 研究代表者は、研究が終了するまでの期間、毎年4月1日現在における当該臨床研究に係る利益相反の状況について申告書を記載し、所属長に提出しなければならない。

3 研究代表者は、申告した内容に変更があった場合、変更申告書(別紙様式2)に変更内容に

ついて記載し、所屬長に提出しなればならない。  
4 臨床研究を共同して行う者（以下「共同研究者」という。）及び委員会委員並びに産学連携及び臨床研究受入に関与する者は、委員会から調査依頼があった場合、所屬長に申告書を提出しなればならない。

（評価、指導等の手続）

- 第9条 委員会は、所屬長の諮問に基づき、申告書の内容について審議し、利益相反状態の評価結果について倫理委員会等に報告するものとする。
- 2 委員会は、審議の結果、必要と認められる場合は、研究代表者に対してヒアリングを実施し、利益相反状態の改善に向けた指導を行うことができる。この場合、研究代表者は指導に基づき是正の内容について、書面により委員会へ提出しなればならない。
- 3 研究代表者は、前項の委員会の指導の内容に異議がある場合、所屬長に対し異議申立を行うことができる。この場合、委員会は、所屬長の諮問に基づき再度審議し、評価結果について倫理委員会等に報告するものとする。
- 4 委員会は、重大な利益相反状態にある又はそのような状態が危惧されると認められた場合は、所屬長及び全学で設置する利益相反マネジメント委員会へ報告するものとする。
- 5 委員会委員が研究代表者又は共同研究者である場合は、当該マネジメントに加わることはできない。

（守秘義務等）

- 第10条 マネジメントに携わる職員等は、マネジメントを通じて知り得た秘密を漏らしてはならない。また、マネジメントに係る業務から退いた後も同様とする。
- 2 職員等から提出された利益相反に関する申告書等の書類は、受付日から5年間保存するものとし、国立大学法人弘前大学個人情報管理規程（平成17年規程第4号）の定めるところにより、管理しなればならない。

（事務）

第11条 マネジメントに関する事務は、関係部署との連携の下、医学研究科事務部において行う。

（その他）

第12条 この規程に定めるもののほか、マネジメントの実施に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成21年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後、最初に選出される委員の任期は、第5条第2項の規定にかかわらず、同条第1項第1号及び第4号の委員並びに第3号の委員1名については平成22年3月31日までとし、その他の委員については平成23年3月31日までとする。

○国立大学法人弘前大学利益相反マネジメント規程  
 (平成21年10月22日制定規程第7号)  
 改正 平成24年2月11日第5号 平成25年4月19日第65号

(目的) この規程は、弘前大学利益相反ポリシー(平成20年3月24日制定)に基づき、国立大学法人弘前大学(以下「本学」という。)の利益相反マネジメントに関し、必要な事項を定め、本学並びに本学の役員及び職員(以下「職員等」という。)が社会貢献活動に取り組むための環境整備に資することを目的とする。

2 医学研究(臨床研究等)における利益相反マネジメントに関し必要な事項は、この規程に定めるもののほか、別に定めるところによる。

(定義) 第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 利益相反 教育及び研究に関する本学及び職員等としての責任と、本学及び職員等が企業等との関係で得る利益又は責任が相反する次に掲げる状況をいう。
- イ 職員等が社会貢献活動によって利益(実施料収入、報酬、未公開株式等)を得る行為と本学における教育及び研究に係る責任が相反している状況
- ロ 職員等が主に兼業活動により企業等に職務遂行責任を負い、かつ、本学における職務遂行責任と企業等に対する職務遂行責任が相反している状況
- ハ 本学が社会貢献活動によって利益を得る行為と本学の社会的責任が相反している状況
- (2) 企業等 国、地方公共団体、独立行政法人、会社その他の営利企業又はその他の団体をいう。
- (3) 利益相反マネジメント 本学及び本学の職員等の利益相反を把握及び管理することをいう。

第3条 利益相反マネジメントの対象となる事象は、次の各号に掲げる場合とする。

- (1) 職員等が社会貢献活動を行う場合(例えば、企業等との兼業活動、共同研究及び委託研究、自らが関わる知的財産権の企業等への譲渡及び実施許諾等並びに企業等からの研究員等の受入れを行う場合等をいう。)で、次のいずれかに該当するとき。
- イ 当該企業等から、一定額以上の金銭の供与を受けする場合
- ロ 当該企業等から、一定額以上の物品等の供与を受け、又は購入する場合
- ハ 当該企業等から、一定比率以上の持分の株式、出資金、新株予約権及び受益権等を取得する場合
- ニ 学生及び研究生を社会貢献活動に従事させる場合

(2) その他次に規定する利益相反マネジメント委員会が対象事象と認められた場合

(利益相反マネジメント委員会の設置)

第4条 本学に、利益相反マネジメントに関する具体的事項を審議するため、利益

相反マネジメント委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項) 第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 利益相反ポリシーに関すること。
- (2) 利益相反マネジメントに係る規程等の制定及び改廃に関すること。
- (3) 利益相反に係る個別案件の調査及び審議に関すること。
- (4) 利益相反に係る外部からの指摘への対応に関すること。
- (5) その他本学の利益相反に係る重要事項に関すること。

(組織) 第6条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事(企画担当)
- (2) 理事(研究担当)
- (3) 各学部及び研究科の教育研究評議会評議員(学部長及び研究科長を除く。)
- (4) 大学院地域社会研究科から選出された教授 1名
- (5) 医学部附属病院の副院長 1名
- (6) 利益相反アドバイザー
- (7) 総務部長及び研究推進部長
- (8) その他委員が必要と認める者

2 前項第8号の委員は、委員会の議を経て、学長が委嘱する。

(任期) 第7条 前項第8号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員及び副委員長) 第8条 委員会に委員長を置き、第6条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は委員会を主宰する。

3 委員会に副委員長を置き、委員長が指名する委員をもって充てる。

4 副委員長は、委員長の職務を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議) 第9条 委員会の会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決すところによる。

3 委員は、自己の携わる社会貢献活動に係る利益相反については、その議事に加わることができない。

4 前項の規定により議事に加わることができない委員の数は、第1項及び第2項の委員の数に算入しないものとする。

5 委員会が必要と認められたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門委員会) 第10条 委員会が必要と認められたときは、専門的事項を調査又は審議するために、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(利益相反アドバイザー)



- 第11条 本学に、利益相反に関して指導及び助言を行わせるため、利益相反アドバイザーを置く。
- 2 利益相反アドバイザーは、次の各号に掲げる専門的知識を有する者のうちから学長が委嘱する。
- (1) 利益相反に関し専門的知識を有する弁護士又は公認会計士
  - (2) 利益相反に関し高度な実務経験を有する者
  - (3) 利益相反に関し高度な学識経験を有する者
- 3 利益相反アドバイザーの任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の利益相反アドバイザーの任期は、前任者の残任期間とする。
- (利益相反相談員)
- 第12条 本学に、利益相反について職員等からの個別相談に応じさせるため、利益相反相談員を置く。
- 2 利益相反相談員は、利益相反に関し専門的知識を有する者のうちから学長が委嘱する。
- 3 利益相反相談員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の利益相反相談員の任期は、前任者の残任期間とする。
- (申告)
- 第13条 職員等は、第3条に定める対象となる事象について、委員会に対し、所定の時期又は当該事象の発生前に自己申告書を提出するものとする。
- 2 自己申告書の実施方法及び自己申告書の様式は、委員会が別に定める。
- (審査、回避要請等)
- 第14条 委員会は、前条の自己申告書に基づき利益相反を審査の上、当該申告を行った職員等に対し、承認又は回避要請の別により通知するものとする。
- 2 委員会は必要に応じて、職員等への事情聴取等を実施することができる。
- 3 委員会は、第1項の規定による通知後においても、引き続きその実施状況を把握するものとする。
- (不服申立て)
- 第15条 前条第1項の規定により回避要請の通知を受けた職員等は、その内容について不服がある場合には、学長に対して書面により不服申立てを行うことができる。
- 2 学長は、職員等から不服申立てがあった場合には、委員会に再審査を指示するものとする。
- 3 学長の指示を受けた委員会は、再度審査を行い、速やかに審査の結果を学長に報告するものとする。
- 4 学長は、前項の報告に基づき、不服申立てに対する処置を決定し、当該職員等に対し通知するものとする。
- (外部からの指摘への対応)
- 第16条 学長は、第13条の規定により申告を行った職員等に関し、外部から利益相反の指摘があったときは、委員会の審査の結果を基に必要な説明を行う。
- (秘密の保持)
- 第17条 第4条及び第10条から第12条までに定める委員会等に関与する者は、その業務により知り得た一切の情報に係る秘密を他に漏えいし、又は提供してはならない。その業務に従事しなくなった後も同様とする。
- 2 職員等から提出された利益相反に関する申告書等の書類は、受付日から5年間保存するものとし、国立大学法人弘前大学保有個人情報管理規程(平成17年規程第4号)の定めるところにより、管理しなければならない。
- (事務)
- 第18条 利益相反マネジメントに関する事務については、関係部署との連携の下、研究推進部研究推進課において処理する。
- (その他)
- 第19条 この規程に定めるもののほか、利益相反マネジメントに関し必要な事項は、委員会が別に定める。
- 附 則
- 1 この規程は、平成21年10月22日から施行し、平成21年10月1日から適用する。
  - 2 この規程施行後、最初に委嘱される第6条第1項第8号の委員、第11条第2項に定める利益相反アドバイザー及び第12条第2項に定める利益相反相談員の任期は、第7条本文、第11条第3項本文及び第12条第3項本文の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。
- 附 則(平成24年2月1日規程第5号)
- この規程は、平成24年2月1日から施行する。
- 附 則(平成25年4月19日規程第69号)
- この規程は、平成25年4月19日から施行し、改正後の規定は、平成25年4月1日から適用する。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

弘前大学医学部附属病院の専門医養成研修プログラムは、将来その分野の先端を担う人間性豊かな良医の育成と科学的な思考能力の涵養、最先端の医療技術の習得を目標としている。そのために、大学病院ならではの症例等の豊富さ、経験豊かな先輩医師、診療科を超えた総合的診療体制、大学在籍中でも研修可能など多くのメリットを活用して、若き医師の学位、各領域認定医・専門医の資格取得などキャリアアップを支援する体制を整えている。現在、以下の各学会の公認する専門医養成施設となっている。

日本内科学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本整形外科学会、日本産科婦人科学会、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本病理学会、日本臨床検査医学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本消化器病学会、日本循環器学会、日本呼吸器学会、日本血液学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本腎臓学会、日本肝臓学会、日本アレルギー学会、日本老年医学会、日本神経学会、日本消化器外科学会、呼吸器外科専門医合同委員会、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構、日本小児外科学会、日本感染症学会、日本心身医学会、日本リウマチ学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会、日本周産期・新生児医学会、日本超音波医学会、日本核医学会、日本集中治療医学会、日本輸血・細胞治療学会、日本透析医学会、日本臨床腫瘍学会、日本ペインクリニック学会、日本脳卒中学会、日本肝胆膵外科学会、日本乳癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本高血圧学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本手外科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本口腔外科学会、日本がん治療認定医機構・日本がん治療認定医機構（歯科口腔外科）、日本心療内科学会、日本熱傷学会、日本脳神経血管内治療学会、日本臨床細胞学会、日本緩和医療学会、日本頭頸部外科学会、日本臨床薬理学会、日本インターベンショナルラジオロジー学会、日本認知症学会、日本小児循環器学会、日本生殖医学会、日本胆道学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本小児血液・がん学会、日本心臓血管麻酔学会、日本不整脈学会・日本心電学会、日本小児口腔外科学会、日本脈管学会、日本カプセル内視鏡学会、

日本消化管学会、日本口腔腫瘍学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本総合病院精神医学会、日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会

## 2 研修の実績

研修医の人数	255.083	人
--------	---------	---

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
福田 眞作	消化器内科, 血液内科, 膠原病内科	教授	34年	
奥村 謙	循環器内科, 腎臓内科	教授	39年	
當麻 景章	呼吸器内科	講師	15年	
大門 眞	内分泌内科, 糖尿病・代謝内科, 感染症科	教授	33年	
東海林 幹夫	神経内科	教授	35年	
佐藤 温	腫瘍内科	教授	27年	
中村 和彦	神経科精神科	教授	25年	
伊藤 悦朗	小児科	教授	34年	
福田 幾夫	呼吸器外科, 心臓血管外科	教授	36年	
袴田 健一	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	教授	30年	
袴田 健一	小児外科	教授	30年	
石橋 恭之	整形外科	教授	27年	
澤村 大輔	皮膚科	教授	33年	
大山 力	泌尿器科	教授	31年	
中澤 満	眼科	教授	35年	
松原 篤	耳鼻咽喉科	教授	28年	
高井 良尋	放射線科	教授	39年	
水沼 英樹	産科婦人科	教授	40年	
廣田 和美	麻酔科	教授	29年	
大熊 洋揮	脳神経外科	教授	32年	
漆館 聡志	形成外科	教授	20年	
山村 仁	救急科	教授	25年	
萱場 広之	検査部	教授	33年	
黒瀬 顕	病理診断科	教授	28年	
加藤 博之	総合診療部	教授	31年	
小林 亘	歯科口腔外科	准教授	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 藤 哲
管理担当者氏名	事務部長 寺坂 和記

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病歴部及び医療情報部	電子カルテ方式にて管理。ただし、同意書等の手書きを要した記録類については、電子化後も紙媒体にて管理。 紙診療記録及びレントゲンフィルムについては、診療記録管理規程により、病院外への持ち出しを禁止している。 医療情報パソコン及びローカル保存データは、情報管理システム運用管理規程の定めにより、システム管理者の許可を得て、病院外への持ち出しができることとなっている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	ファイル形式(紙媒体)
	高度の医療の提供の実績	経営企画課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営企画課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
第規一則 号第一 に掲げの 十 体一 制第一 項各 号状 及び 第九 条の 二十 第一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	ファイル形式(紙媒体)
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	総合患者支援センター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御センター
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御センター
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御センター
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御センター
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 藤 哲	
閲覧担当者氏名	事務部長 寺坂 和記	
閲覧の求めに応じる場所	病院小会議室	
閲覧の手続の概要	別紙のとおり	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

## ○国立大学法人弘前大学情報公開取扱規程

(平成16年4月1日制定規程第82号)

改正 平成22年7月30日規程第57号 平成22年9月28日規程第74号  
平成24年5月16日規程第72号 平成25年4月19日規程第41号  
平成26年3月28日規程第47号

## (趣旨)

第1条 国立大学法人弘前大学(以下「本学」という。)における情報公開の実施に係る取扱いについては、法令又は別に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

## (定義)

第2条 この規程において「法人文書」とは、独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年法律第140号。以下「法」という。)第2条第2項に規定するものをいう。

2 この規程において「行政機関」とは、行政機関の保有する情報の公開に関する法律(平成11年法律第42号)第2条第1項各号に規定する機関をいう。

3 この規程において「部局等」とは、事務局各部並びに人文学部、教育学部及び農学生命科学部並びに大学院医学研究科、保健学研究科、理工学研究科及び地域社会研究科並びに北日本新エネルギー研究所、白神自然環境研究所、被ばく医療総合研究所及び食料科学研究所並びに附属図書館、医学部附属病院、各学内共同教育研究施設、学生就職支援センター、法人内部監査室及び学長室をいう。

## (受付)

第3条 本学が保有する法人文書について、開示請求があった場合は、国立大学法人弘前大学情報公開室(以下「情報公開室」という。)において次の各号に定めるところにより受け付ける。

(1) 本学が保有する法人文書の開示を請求する者(以下「開示請求者」という。)

に対し、国立大学法人弘前大学法人文書管理規程(平成23年規程第48条)第16条第1項に規定する弘前大学法人文書ファイル管理簿その他関連資料等を用いて、法人文書の特定に資する情報の提供に努めなければならない。

(2) 開示請求を受け付けるときは、開示請求者に第1号様式の法人文書開示請求書(以下「開示請求書」という。)を提出させるとともに、開示請求手数料300円を徴収するものとする。この場合において、開示請求書に形式上の不備があるときは、開示請求者に参考となる情報を提供し、その補正を求めることができる。

(3) 開示請求書を受理したときは、開示請求者に開示請求書の写しを交付するとともに、開示請求書の写しを開示請求のあった法人文書を保有する部局等に送付する。

## (開示等の検討)

第4条 学長は、法人文書の開示、不開示(以下「開示等」という。)を検討するに当たって、当該法人文書を保有する部局等の長の意見を求めるとともに、必要に応じて国立大学法人弘前大学情報公開・個人情報保護委員会(以下「委員会」という。)に意見を求めるものとする。

## (開示等の決定)

第5条 学長は、法第4条第2項に規定する補正に要した日数を除き、開示請求があった日から30日以内に開示等の決定をする。

2 学長は、法第10条第2項の規定により開示等の決定を30日以内の期間で延長する

ときは、第2号様式により当該開示請求者に通知しなければならない。

- 3 学長は、法第11条の規定により開示請求に係る法人文書のうちの相当の部分を除く残りの部分について、決定する期間を延長するときは、第3号様式により当該開示請求者に通知しなければならない。
- 4 学長は、法第12条第1項の規定により事案を他の独立行政法人等の長に移送するときは、第4号様式により当該独立行政法人等の長へ移送するとともに、第5号様式により当該開示請求者に通知しなければならない。
- 5 学長は、法第13条第1項の規定により事案を行政機関の長に移送するときは、第6号様式により行政機関の長へ移送するとともに、第7号様式により当該開示請求者に通知しなければならない。
- 6 学長は、法第14条第1項及び第2項の規定により第三者から意見を聴取するときは、当該第三者に対し、第8号様式又は第9号様式により照会し、第10号様式の提出を求めるものとする。
- 7 学長は、法第14条第3項の規定により第三者の意に反して開示するときは、第11号様式により当該第三者に通知しなければならない。
- 8 学長は、開示等の決定をしたときは、第12号様式、第13号様式又は第14号様式により当該開示請求者に通知しなければならない。

#### (開示の実施)

- 第6条 学長は、法第15条第3項の規定により法人文書の開示を受ける者から第15号様式又は第16号様式による開示の実施方法の申出書が提出されたとき、又は法第15条第5項の規定により開示を受ける者から第17号様式による更なる開示の申出書が提出されたときは、開示を受ける者の便宜を図って開示を実施する。
- 2 前項の規定により開示を実施するときは、行政機関の保有する情報の公開に関する法律施行令(平成12年政令第41号)第13条の規定を準用して、開示実施手数料を徴収する。
  - 3 法人文書の開示は、原則として情報公開室において実施する。ただし、法人文書を移動すると汚損の危険性がある場合や利用者の居所等の都合により情報公開室まで出向くことができない場合には、当該法人文書を保有する部局等において実施する。
  - 4 開示を受ける者が法人文書の写しの送付による開示の実施を希望する場合は、情報公開室において法人文書の写しを送付する。この場合、郵送料を郵便切手で徴収する。

#### (開示の実施の方法)

- 第6条の2 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令(平成14年政令第199号)第4条第2項の規定による開示の実施の方法は、行政機関の保有する情報の公開に関する法律施行令第9条の規定を準用する。

#### (開示実施手数料の減額等)

- 第7条 学長は、第6条第2項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する場合は、法第17条第3項の規定に基づき、開示実施手数料を減額又は免除することができる。この場合、必要に応じて委員会の意見を求めるものとする。

- (1) 開示を受ける者から第18号様式により開示実施手数料の減額又は免除の申出があったとき。
  - (2) 開示決定に係る法人文書を一定の方法により一般に周知させることが適当であると認めるとき。
- 2 学長は、開示実施手数料の減額又は免除の措置を、第19号様式又は第20号様式



により当該開示を受ける者に通知しなければならない。

(移送された事案)

第8条 法第12条第2項の規定により他の独立行政法人等から移送された事案に係る開示等の検討及び決定並びに開示の実施については、第4条から第7条までの規定に準じて行う。

2 行政機関の保有する情報の公開に関する法律(平成11年法律第42号)第12条の2第1項の規定により行政機関から移送された事案に係る開示等の検討及び決定並びに開示の実施については、第4条から第7条までの規定に準じて行う。

(不服申立て)

第9条 学長は、開示をしない旨の決定等について不服申立てがあったときは、委員会の意見を求めるものとする。

2 学長は、法第18条の規定により情報公開・個人情報保護審査会に諮問するときには、第21号様式により諮問書を情報公開・個人情報保護審査会へ提出するとともに、第22号様式により不服申立てをした者(以下「不服申立者」という。)に通知しなければならない。

3 学長は、不服申立てに対する決定をしたときは、第23号様式により不服申立者に通知しなければならない。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、情報公開の実施に関して必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年5月16日から施行し、改正後の規定は、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成21年2月9日から施行する。

附 則(平成22年7月30日規程第57号)

この規程は、平成22年8月1日から施行する。

附 則(平成22年9月28日規程第74号)

この規程は、平成22年10月1日から施行する。

附 則(平成24年5月16日規程第72号)

この規程は、平成24年5月16日から施行する。

附 則(平成25年4月19日規程第41号)

この規程は、平成25年4月19日から施行し、改正後の規定は、平成25年4月1日か

ら適用する。

附 則(平成26年3月28日規程第47号)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

第1号様式(第3条第2号関係)

法人文書開示請求書

[別紙参照]

第2号様式(第5条第2項関係)

開示決定等の期限の延長について(通知)

[別紙参照]

第3号様式(第5条第3項関係)

開示決定等の期限の特例規定の適用について(通知)

[別紙参照]

第4号様式(第5条第4項関係)

開示請求に係る事案の移送について

[別紙参照]

第5号様式(第5条第4項関係)

開示請求に係る事案の移送について(通知)

[別紙参照]

第6号様式(第5条第5項関係)

開示請求に係る事案の移送について

[別紙参照]

第7号様式(第5条第5項関係)

開示請求に係る事案の移送について(通知)

[別紙参照]

第8号様式(第5条第6項関係)

法人文書の開示請求に関する意見について(照会)

[別紙参照]

第9号様式(第5条第6項関係)

法人文書の開示請求に関する意見について(照会)

[別紙参照]

第10号様式(第5条第6項関係)

法人文書の開示に関する意見書

[別紙参照]

第11号様式(第5条第7項関係)

法人文書の開示決定について(通知)

[別紙参照]

第12号様式(第5条第8項関係)

法人文書開示決定通知書

[別紙参照]

第13号様式(第5条第8項関係)  
法人文書部分開示決定通知書  
[別紙参照]

第14号様式(第5条第8項関係)  
法人文書不開示決定通知書  
[別紙参照]

第15号様式(第6条第1項関係)  
法人文書の開示の実施方法等申出書  
[別紙参照]

第16号様式(第6条第1項関係)  
法人文書の開示の実施方法等申出書  
[別紙参照]

第17号様式(第6条第1項関係)  
法人文書の更なる開示の申出書  
[別紙参照]

第18号様式(第7条第1項第1号関係)  
開示実施手数料の減額(免除)申請書  
[別紙参照]

第19号様式(第7条第2項関係)  
開示実施手数料減額(免除)決定通知書  
[別紙参照]

第20号様式(第7条第2項関係)  
開示実施手数料の減額(免除)について  
[別紙参照]

第21号様式(第9条第2項関係)  
諮問書  
[別紙参照]

第22号様式(第9条第2項関係)  
情報公開・個人情報保護審査会への諮問について(通知)  
[別紙参照]

第23号様式(第9条第3項関係)  
不服申立てに対する決定通知書  
[別紙参照]

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： ① 医療安全管理に関する基本的考え方 ② 医療安全管理のための組織体制 ③ 院内報告体制 ④ 安全な医療を提供するための職員研修 ⑤ 安全確保を目的とした改善のための要点 ⑥ 医療事故発生時の対応 ⑦ 医療従事者と患者様との間の情報の共有に関する基本方針 ⑧ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ⑨ その他医療安全推進の要点	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 15 回
・ 活動の主な内容： ① 医療事故予防・防止に関する情報収集及び対策の検討 ② 医療事故防止マニュアルの作成 ③ 医療事故予防・防止の教育、研修の企画、立案及び実施 ④ 医療事故の調査・報告、原因分析及びその対策 ⑤ 医事紛争の予防・防止及びその対策	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
・ 研修の主な内容： ・ 医療安全ハンドブック説明会 ・ 医薬品安全管理研修会 ・ BLS 部署別講習会 ・ 医療安全講演会 (2回) 「国公立大学附属病院医師賠償責任保険について」 「医療事故被害者遺族の立場から望むこと」 ・ 医療安全研修会	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① 医療事故発生時、安全管理委員会への報告 ② 医療事故の事例収集・分析により、院内での問題点を把握し、改善策の企画立案及び評価の上、情報を共有 ③ 重大な医療事故発生時の管理者への報告	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 3 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 2 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任 ( 4 ) 名 兼任 ( 9 ) 名 ・ 活動の主な内容： ① 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成及び保存並びに委員会の庶務 ② 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認並びに指導 ③ 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況の確認並びに指導 ④ 事故等の原因究明が適切に実施されているかの確認並びに指導 ⑤ 医療安全に係る連絡調整 ⑥ その他医療安全対策の推進	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 院内感染対策の基本的考え方</li><li>② 院内感染対策のための組織体制</li><li>③ 院内感染対策のための職員研修</li><li>④ 院内感染発生状況の報告体制</li><li>⑤ 院内感染発生時の対応</li><li>⑥ 患者様等に対する院内感染対策のための指針閲覧に関すること</li><li>⑦ 器材の滅菌・消毒・洗浄</li><li>⑧ その他院内感染対策推進のための基本方針</li></ul></li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 院内感染防止対策の検討</li><li>② 院内感染防止マニュアルの作成</li><li>③ 院内感染防止の教育、研修の実施</li><li>④ 院内感染発生時の周知体制</li><li>⑤ 院内感染発生時の原因分析、改善策立案・実施、職員への周知</li><li>⑥ 委員会で立案された改善策の実施状況の調査・見直し</li></ul></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策</li><li>② 院内感染対策に対する意識向上を目的とした内容</li></ul></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( (有)・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 院内感染の発生状況を把握するため、院内での感染症の発生動向の情報を共有。</li><li>② 重大な院内感染発生時、地域の専門家等に相談が行われる体制を確保。</li><li>③ 「医療関連感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備。</li></ul></li></ul>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 薬剤師法改正による留意事項 薬剤部長 早狩 誠 薬剤師法の改訂により、糖尿病薬の服用患者での低血糖状態や眠剤を服用している患者等への車両の運転への注意喚起が薬剤師にも義務付けられ、患者へのより安全な薬物療法が求められている。</p> <p>2. 知ってほしい注射の基礎知識 医療安全推進室 金澤 佐知子 病棟で行われる注射剤の安定性、混合調整時に生じる配合変化の事例の紹介ならびに留意点。</p> <p>3. 麻薬の取り扱いについて - 事故事例を中心に - 薬剤部麻薬主任 岡村 裕嗣 院内で生じた不適切な麻薬取り扱い事例を多数紹介、その問題点から今後の留意事項を紹介した。また新人医療従事者に向け、基本的な麻薬の取り扱い項目について紹介した。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (○有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>① 医薬品採用・購入 ② 医薬品の管理全般 ③ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関すること ④ 患者に対する与薬や服薬指導に関すること ⑤ 医薬品情報の収集・管理・提供 ⑥ 他施設との連携</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>① 医薬品安全管理責任者に対して、医薬品の添付文書情報のほか、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等からの情報を広く収集し管理させる</p> <p>② 得られた情報のうち必要なものは職員に迅速かつ確実に周知徹底を図る</p>	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年31回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 医療機器の有効性・安全性</li><li>② 医療機器の使用手法</li><li>③ 医療機器の保守点検</li><li>④ 医療機器不具合発生時等の対応</li><li>⑤ 医療機器使用に関して特に法令上遵守すべき事項</li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 (有・無)</li><li>・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 検査部門 : 各検査機器マニュアルに添付されている、デーリー・ウィークリー及びマンスリーの保守点検表のチェック</li><li>・ 放射線部門 : ①毎日の始業点検と終業点検、②定期保守点検(放射線治療機器、MRI装置、CT装置、血管撮影装置)、③消耗部品の耐久時間・過去の故障実績を鑑みたスポット点検、④故障時の修理・部品交換に合わせた点検</li><li>・ MEセンター : 年間点検計画に基づき、定期点検又始業点検、動作中点検を行い、安全点検システムMARISで一括管理をしている。</li></ul></li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 添付文書等の管理</li><li>② 医療機器に係る安全性情報等の収集</li><li>③ 病院管理者への報告</li></ul></li></ul>	